# 輿車圖考

は
6
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

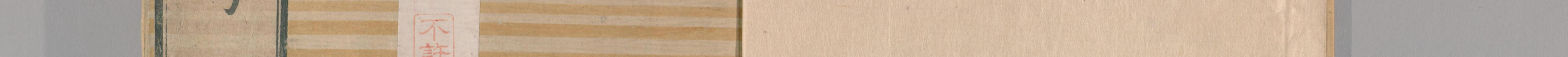
# 輿車圖考

は
12
22

東京圖書館

| 和書門 | 政書類 | 一〇函 | 五架 | 九號 | 一二册 |
|---|---|---|---|---|---|

不許帶出



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

東京圖書館藏書

## 小輿

巨萬津曾能乃新傳

貞觀儀式正月八日講竟勝王經儀條云次講讀師
前行者左右相分引進（各居小輿其擔丁着紺衣袴白布帶用駕輿丁）執蓋
覆其上雅樂寮引樂人等在其前（中畧）前行者引小輿
執蓋等皈却
西宮記齋王入京條云於伊賀堺辛輿寮宣置芳（改用）
（小輿伊賀仏）向難波禊（山城依宣旨進舩）
江家次第圓宗寺最勝會條云講讀師前行左右相
分引進（各居小輿其擔丁着紺衣袴白布帶用駕輿丁）執蓋
執蓋諸司擎蓋覆其上（中畧）講讀師下輿昇堂東西階

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

對進就礼盤前行者引小輿軟蓋歸劫候東西廊戸
外中門就小輿奏樂如入儀
駐輪の号をりてあゝ出るこれを小輿とやいふん
屋形のさまにて猶輿小なるものなるべし
車輿
台記云久安三年九月十二日天王寺御幸未刻着官柱
津喰食即幸天王寺御車余依仰乗手輿候後陣
同云久安四年七月十一日今日女子詣石清水稲
荷中門於宿院移乗車輿修理別當家清輿也登山中門晩頭詣稲
荷幣五串於下社乗車輿憑頼輿也詣中上等社
同云久安四年十一月九日今日女子密詣日吉中門
令日自京乗車輿参詣入夜皈
同云久安四年十二月七日次参女院中將同車尼上自
辰刻煩惱因之亥刻乗車輿法親王輿也人小其内移御仁和
寺木寺等余改衣裳扈従
屋形輿
王海云治兼四年六月二日都移自八條通至草津武
士數千騎二行並轡夾幸路先入道相国駕屋形輿

次女車一輛次女房輿二
同云治承四年六月十四日乙未天晴寅刻就前大納
言邦綱寺江山莊暫以休息未一點乘船女房等不
從到于大物駕輿高屋形輿同所備用前大納言也
輿舁四人
乘馬十二人寺僧都被借送共人

園大暦云延文五年二月十四日消息聽牛車人被
用輿候条ハ多子ゐくるまと覚えき輿ハ別
當不及沙汰乗車乗之由くるまなり
見及ト
古画にもいちしるくこれをさきそのも

[illegible]ゐれハしばらく園をゐくるまとも輿

肩輿

西宮記御佛名條云昌泰元御導師依老衰肩輿
參

平定家朝臣記云康平四年九月廿五日平等院御
塔供養也未刻僧侶參上註畧導師前大僧正明尊乘
肩輿無蓋依無可張綱人俄有議留之
長秋記云大治二年十一月五日本院新院高野
御登山御幸
至盤折坂本供奉人人上下皆乘馬本院御肩輿新

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

院騎馬民部卿獨着葦沓
同云保延元年五月六日女院俄密々令詣法輪御
下宮車御供女子下宮一人庶従乍乗肩輿乗舩渡
給
玉葉云嘉禎四年六月五日今日前大納初参請春
日社中門隨兵百騎在輿前後大納言乗肩輿件輿舁
改入道之

手輿

大鏡云長山陳之戒壇之時勢ひ殊なりて

入道殿いそぎてまいりたまへるをみいだしたてまつりて
おりたまふところにのりたまふところまでみおはしたる
中右記云天永二年二月廿九日院令参詣八幡給
中暑於宿院鳥井外御車手引於廊前門下令乗手輿
御駕輿丁
畢之
台記云久壽二年八月一日今夕近衛院時遊也仍
寂々乗手輿有屋形懸帷裳向土御門西洞院畢居輿地上
見物依非車無禮也
玉海云治承四年十二月廿六日未刻参女院御方

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

依行歩不可用手輿如例

吉續記云文永十年閏五月廿六日申刻許登山衣冠至西坂本乗車自彼坂用輿（手輿也仆輿借請経海僧正或申請座主例也）是（依親脚為便宜欤）

園太暦云観應元年三月八日中畧今日參石山寺中畧卯刻參着寺門於大門撤輿蓋聽手車之上雖不可及此儀敬信之至如此以手輿昇不階中央鎮守前下輿

九日天晴今朝不及參堂大夫者今暁參了於大門覆輿蓋画刻歸宅

満濟准后記云正長二年正月一日拝殿出仕着沓衣當年初用手輿了

管見記云享徳二年十一月十九日予參向中畧刻限着束帯（無文帯蒋繪欵）乗手輿（前駈一人小雜色三人）於二鳥居下自輿下

親長卿記云文明四年四月六日右少辨元長六月會參行抑今度用手輿了先々京中用四方輿於河原撤蓋爰予勤修寺大納廣橋大納言等相談云先々用四方輿雖然當時構為洛外其上撤蓋預置河原左家車當時是又不可叶自京中可用手輿之条如何返答當時之儀任本儀雖可用四方輿就便可為手輿之条

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

有何子細欤任両卿異見用予輿乎

同云文明十年九月十一日元長参向事大徳寺入院中畧

参向之儀冉予輿可為四方輿雖令借冉不借出予可苦也仍冉了

元長卿記云永正五年三月十六日晴大徳寺入院

勅使伊長参向四方輿不借得之間冉予輿雑色六

人侍一人

同云永正十年三月四日妙心寺入院也右少辨参

向冉予輿四方輿依難得也

二水記云永正十五年四月三日傳聞武家今日御

登山従坂本云々山上予輿之外不冉雖然武家依

御懇望御宿坊迄御板輿

同云大永元年六月一日延暦寺六月會後去月令

始行云々勅使藏人右辨資定中今日参向中畧勅使着束帯

乗予輿参向

## 坂輿

和長卿記云明應七年六月朔日頭右中巫六月會

参向之程予被誘引之中畧勅使被出仕講堂自勅使

坊南谷西尊院乗坂輿力者六人舁也登山路次同前

二水記云永正十七年十一月廿八日早旦伏見殿
今日四宮御方御入室（梶井）御登山也（中略）従山下御輿
四方輿（四方簾悉垂也）ヤセ童子奉昇也山徒三百人許参
御迎使節引具也云々俗中徒是輿カ者昇也
云々

饗駅嘶餘云坂輿四方輿等之車ナリ山中ノ本ニ
カマウ故ニ四方輿ノ屋形ヲ除テ下ハカリヲ坂
輿トイフ也

四方輿にものきらすを用ゆるなんと
に柱のとあるてはもろ多ゆれうくして引もへた

かくは名にけしるえし

塵取輿

春日記禄云至徳二年三月廿七日山城国寺田ノ
長者次男藤若九今年六歳ニ罷成塵取輿ニ乗山
臥一人殿原法師一人下部二三人召具テ来ノ間
今夜ハ止置了（師威カ記ナリ）（以下欠）

四方輿

門室有職抄云輿乗下車四方輿ニハ自傍下乗（左右）

任意若自傍無便ニハ自前可下之四方輿ノ簾ヲハ前ヘ一面揚之三面ハ人相過之時下ス有煩故也云々

蛙抄云四方輿間車上皇摂關大臣以下公卿僧綱等遠所之時乗用之直衣時皆乗之冠浄衣将衣俗相替俗ハ庵形僧ハ如両眉其外無差異表張綱代青地文小八葉也下張白布四方懸簾例青簾也草緒也まさきてれう草の孫なる孫とも力者一手ニ昇之着白直垂真俗同也一手ト号スル六人也前后各三人昇之三人之内中央ハ如常懸綱於肩昇之其左右両人ハ只取長柄也前後共同之遠所之時ハ二手モ三手モ可召具也一手之外ハ只輿ノ前後ニ走行也俗僧同之長途之間相替昇之

或抄云四方輿ニハ自傍下乗之左右便宜依便ニハ自前可下也四方輿ノ簾ヲハ前ヘ一面揚之三面ハ人相過之時下ス有　今案常儀上三方簾不上後方簾也又自傍下乗車不便宜下号手輿ハ四方輿ノ蓋并柱ヲ撤シテ乗スル、ハ力者等儀同前

青蓮院坊官記云元亨四年四月廿五日妙香院僧

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

正御坊慶慈為御任山御登山午刻御装束別記四方
輿（俊禅僧正輿也）御力者十二人（中略）扈従僧綱大納言僧都
隆深（鈍色表袴）四方輿力者五人（中略）次御出奉行泰寛法
眼云々
園大暦云貞和四年八月十四日明日放生會上卿
春宮大夫參向（中略）不改毛車沙汰駕四方輿（衣冠上絡）共
人諸大夫侍都合八九人召具之
満濟准后記云正長二年八月十七日今日室町様
八幡御參詣御輿（四方輿）被用鹿苑院殿御召輿了此
御輿先年八幡御幸之時院御所へ被進了今度又

被申請也
康富記云嘉吉三年五月廿八日壬午晴臧人権右
中辨俊秀為六月會勅使自今日被參向延暦寺者
也（中略）予自兼日可同道之由有約諾之間早朝致用
意詣彼亭凊被着裝束時分也即被乗四方輿（自梶井殿被申請云々）
者十人也（中略）到雲母坂之麓於不動堂前撤四
方輿戸棟柱等為手輿被登山
さ記の就長元年の記にてハ手輿のこと
ものゝみえそうこと忠蛙抄と康富の記にハ有る
ものゝみ也

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

義政公石清水詣記云公卿三人如例四方輿
宣胤卿記云永正十五年四月十六日今暁誓願寺
本尊迁座也勅使頭左中辨伊長朝臣參向四方輿
二水記云大永二年十一月廿二日早旦菅大納言
坊城長者拝堂出仕見物也行粧美麗也路次様先如
木雜色乘馬次主人小雜色八本四方輿力者皆之次布衣侍騎馬
次侍従扈従東帯ニ劔四方輿
駒引の画によるべあるべき事
網代輿棟立輿

後愚昧記云永和三年八月廿九日若宮御
三品主上御方渡御申刻許
也下部三人直垂大帷重具之可為車歟如何不得意事
也
伊勢貞陸記云應永廿八年三月廿一日此御所ヨ
リ御網代輿也先三條坊門八幡へ御社參
同云應永廿八年十一月二日管領許定始騎馬五
番路次ハムシ衣子タテケサヤリ
建内記云永享三年三月二日室町殿今日渡御一
条大宮素玉房庵室也自彼庵御乘移網代御輿渡

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

御梶井御門跡云〻
康富記云嘉吉二年八月廿二日庚戌晴畠山左衛
門督入道管領職之出仕始也午刻也出立儀布袴
也乘網代輿立棟騎馬十人下
同云嘉吉四年正月十日是日室町殿有渡御於管
領畠山左衛門督入道宿所中君御毋堂大方殿同有
御出網代御輿也女房達出車二両云〻
親長卿記云文明五年八月廿八日今日細川宗明
九歳童名出仕始也中間宗明網代輿カ者小者中間等及
數十人

法印已下人乃終ることとくに出ること

袖輿

満濟准后記云正長二年三月十一日室町殿聖護
准后袖輿袖文牡丹平絹裘袋薄墨庇従僧細一人従
僧両人
同云正長二年三月廿九日今日戌始予院參堅固
内々儀也着裘袋乘袖輿庇従僧細松橋僧都賢紹
重衣房官一人
駈乘の輿によるくあるへき出さるゝ張輿も如

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

# 張輿

山槐記云治承四年五月十五日 高倉院 渡畧
宮來張蓋摺之輿令持幣如物詣人令向寺給云、
吉記云元暦二年五月七日早旦大夫判官義経相
具前内府來張蓋摺輿
青蓮院坊官記云元亨四年四月廿五日妙香院僧
正御坊 慈慶 為御任山 御登山 中畧 次御出奉行泰寛法
眼 付衣袈裟不着袴張輿二乘用
園太暦云延文四年五月十六日 干時入道相国 御子左大

納言入道先日有示旨 中畧 今日行向也先大
納言。光 細朝臣光 行向連等乘車後 其間送張輿 予雜敷之後未及乘車可談輿之旨示之
仍申刻許行向輿舁入門内
後愚昧記云永和五年六月廿七日今日小童 十二歳予 未子 入室威徳寺先向十徳大寺行粧凡不及沙汰只
張絹水干 不着 草衣 冉張輿凡言語道断之覇
伊勢貞陸記云應永廿一年十二月廿一日為大御
所様御代官御方御所様八幡宮ニ御參籠 中畧 御輿
ハリコミ御力者十二人
同云應永三十年正月十一日御評定有管領出仕
衣袴也摂津左馬助満親波多野因幡入道元昌太田

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

問注所刑部少輔康雄以上三人許定衆也ハリヨシ

## 板輿

海人藻芥云四方輿僧俗皆用之于輿腰輿是者或社中用之張輿一向内々時用之駕柄輿是者田舎等用之當時板輿ト云物也

満濟准后記云正長二年九月廿一日南都下向予四方輿力者廿人歟中畧宗濟僧都隆濟僧都顕濟等板輿躰御後參了

建内記云永享十二年二月十一日春日祭也予為上卿依早旦進發先行也水内々用板輿近例也成房為奉詣相伴是又板輿也

宣胤卿記云長享三年正月十日今日室町殿諸家參賀式日也中畧自殿下今日御參賀為御乘用予輿被借召之間皆具進了亂来摂家清花皆以乘板輿不及車之沙汰輿所持方尚以布也未代作法可悲云〻

同云永正八年二月廿七日今日春日祭也上卿車有存旨所申請也中畧着衣冠乘輿板輿々丁二人也内々儀着直垂

常儀也雖然直為社參着衣冠尤宜子孫可存此旨
元長卿記云永正五年二月廿八日今日春日祭也
為參行自曉天経営着束帯乘板輿
二水記云永正十七年十一月廿八日早參伏見殿
今日四宮御方御入室梶井御登山也中門御輿板輿懸下簾御
共侍十人欤次房宣三騎次中御門火納言逢輿垂簾雑色四本布
衣侍一人笠持等次勧修寺中納言逢輿垂簾雑色四本笠持
乘輿板輿
中門後閑室町殿於善法寺被着御淨衣紺御下袴御
同云大永六年二月十六日今日石清水社遷宮也
同云大永八年七月四日己刻有陣儀故勧修寺儀
同従一位三司教秀卿贈宣左大臣儀也上卿師大納言奉行
左中辨尹豊少納言範久朝臣持宣命向墓所東山浄
院板輿雑色二人許也
輦金物仙洞江被窺御返車京極宮御
輦の事元祖御記
仙洞ふるき御車女中乃乗なんのよし
ものゝ事にて智恩穏仁なんとも云ふるものにて
なき事本式并等ふるいにて
新く作らし

仙洞御所花町殿出来之
伏見殿并郷の名
なき事也ぬりたる事十二和かるものる乗ニ
乗輿ニ不知牛尋
給城うちん乃画ふさ
ようと塗ニこしとい

塗輿

満濟准后記云正長二年九月廿二日室町南都
後管以下大名主人塗輿騎馬濟ニ供奉 其

二水記云永正十五年三月十九日宮御方密ニ令
詣石山寺給依仰令供奉了伏見殿宮御方竹内殿
右宰相中将予已上輿各御板輿也
竹内殿一丁塗輿也
同云大永元年十二月廿四日今日武家御元服也
仍渡御于三條御所中略辰刻渡御塗輿無簾 三光院内府公使云
くハ四方輿のやうに前後ハ
車のやうにてそれも一名也
和語雑々抄慶長乙卯 云宮様ニ
近たるをそいふ乗ニ如此
兼宣公記云應永廿四年八月十二日進發廷尉佐
所同道也各塗板輿余輿并六人小冠分三人召之

強力族也裝束以下唐櫃界之
重保卿記云永祿十一年十月廿一日室町殿御參
内傳奏被相觸也惟房也御輦輿置石二于立御烏
帽子香直垂織物小袖
豊鑑天正十六年四月十四日聚樂亭行幸條云國
母准后と女御の御輿とをもつて大典侍御乃勾當
乃そのかう女中衣乃こと三十丁隊こる下簾あり
中略そのあとに少引さるくわとをつて罕五千あり

## 女房輿

明月記云建仁二年二月二日自鳥羽御幸八幡女
房輿三
東監云寶治二年十月六日將軍家俄入御于鶴岡
別當法印雪下坊被用女房輿
同云文永三年七月四日戌刻將軍家入御越後入
道勝圓佐介亭被用女房輿
宣胤卿記云永正十四年閏十月二日今日室町殿
為有馬山温泉令下摸州給依御中風氣也御忍分
被用女房輿
六被乞如

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

## 籠輿

太平記主上御没落笠置事條云俄ノ事ニテ綱代輿メニナカリケレハ張輿ノ怪ケナルニ中畧先一宮中務卿親王中畧實簿都合六十壹人其所後春屬共ニ至マテハ計ルニ不遑或ハ籠輿ニ被召或傳馬ニ被乗テ白晝ニ京都ヘ入給ヒケレハ

鹿苑院殿巌嶌詣記云康應元年三月十一日御社ふしおもをのこしてはおのの淚乃袖井れりとそ

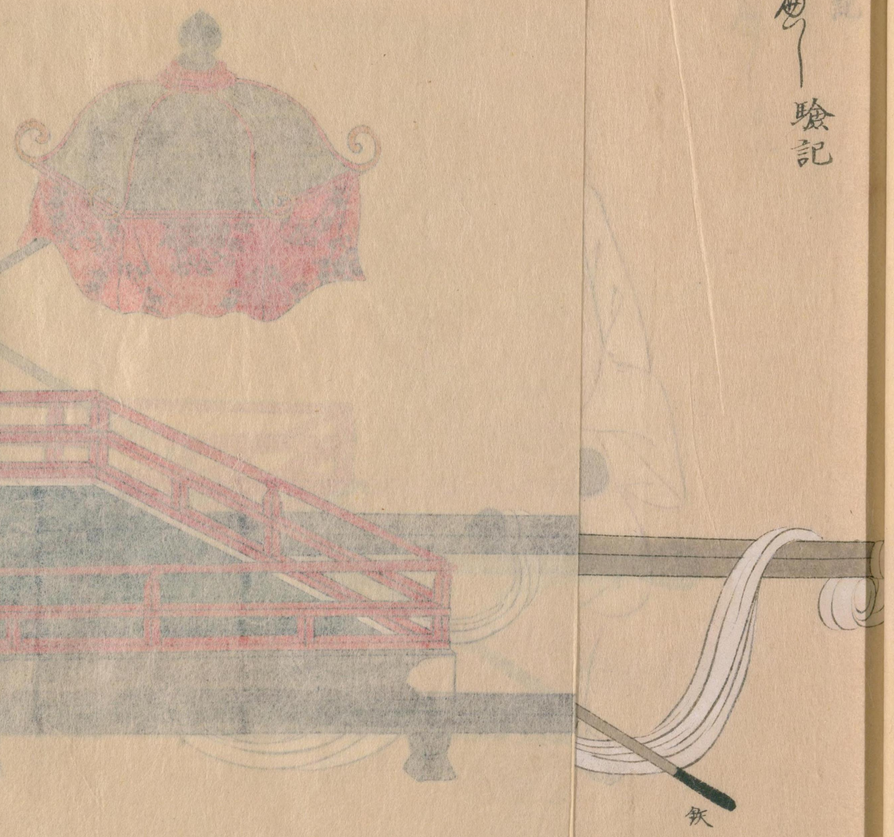
かこふくた身たらはをたれ梁

荷輿 檐輿

籠輿てふものは傳馬と称ふ人の痛むをたに譯馬なにくるをとゝ後ーそれらしきゝ考ふる詞ゝ免されゝ被ゝ乃ゝにくゝこてふものゝ堂上たるゝ板ーたをゝ白木をさゝたるをゝ的綱代むーらゝをゝとふゝ張物をゝふものゝうもゝなゝたゝれゝるゝこれゝ張人の痛むをたに譯馬なにくるをとゝ後ーそれらしきゝ考ふる詞ゝ免されゝ被ゝ乃ゝにくゝこてふものゝ堂上たるゝ板ーたをゝ白木をさゝたるをゝ的綱代むーらゝをゝとふゝ張物をゝふものゝうもゝなゝたゝれゝるゝこれゝ

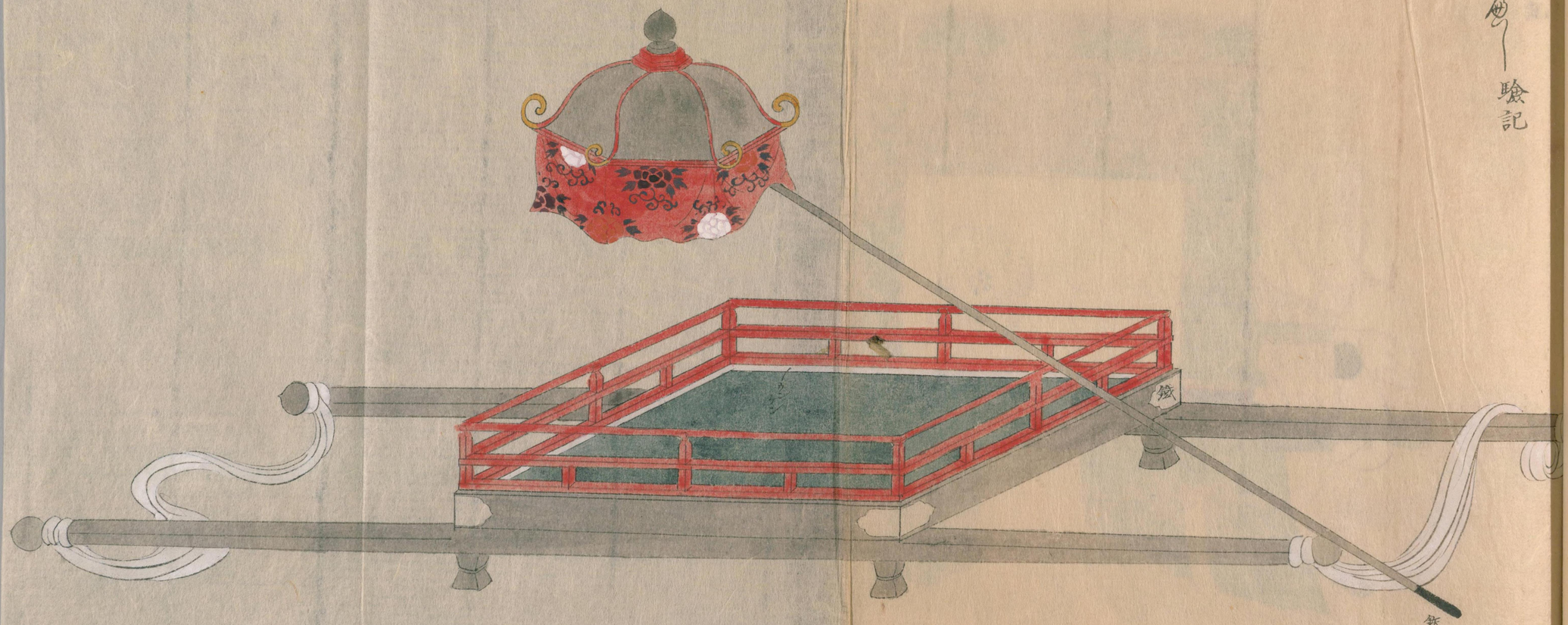
ゝふゝ輿をゝも馬をゝゝゝるゝ史二ゝ記ゝ六月十三ゝ出ゝ家ゝ物ゝ（女婦ゝ輿ゝ少納言ゝ馬）ゝ麻笠竜輿ゝゝゝ此ゝ事ゝ

豊臣秀吉記云天祿四年八月秀吉下六條陣令十餘士輩ハ中畧後雖為國牧而年甚壯則不許ス若年五十ハ行程一里ヽ時籠駕可許ヽ若於有疾ハ別非制限矣右印本籠駕ト訓ス即籠輿ノフナルヘシ




小輿形之圖一驗記

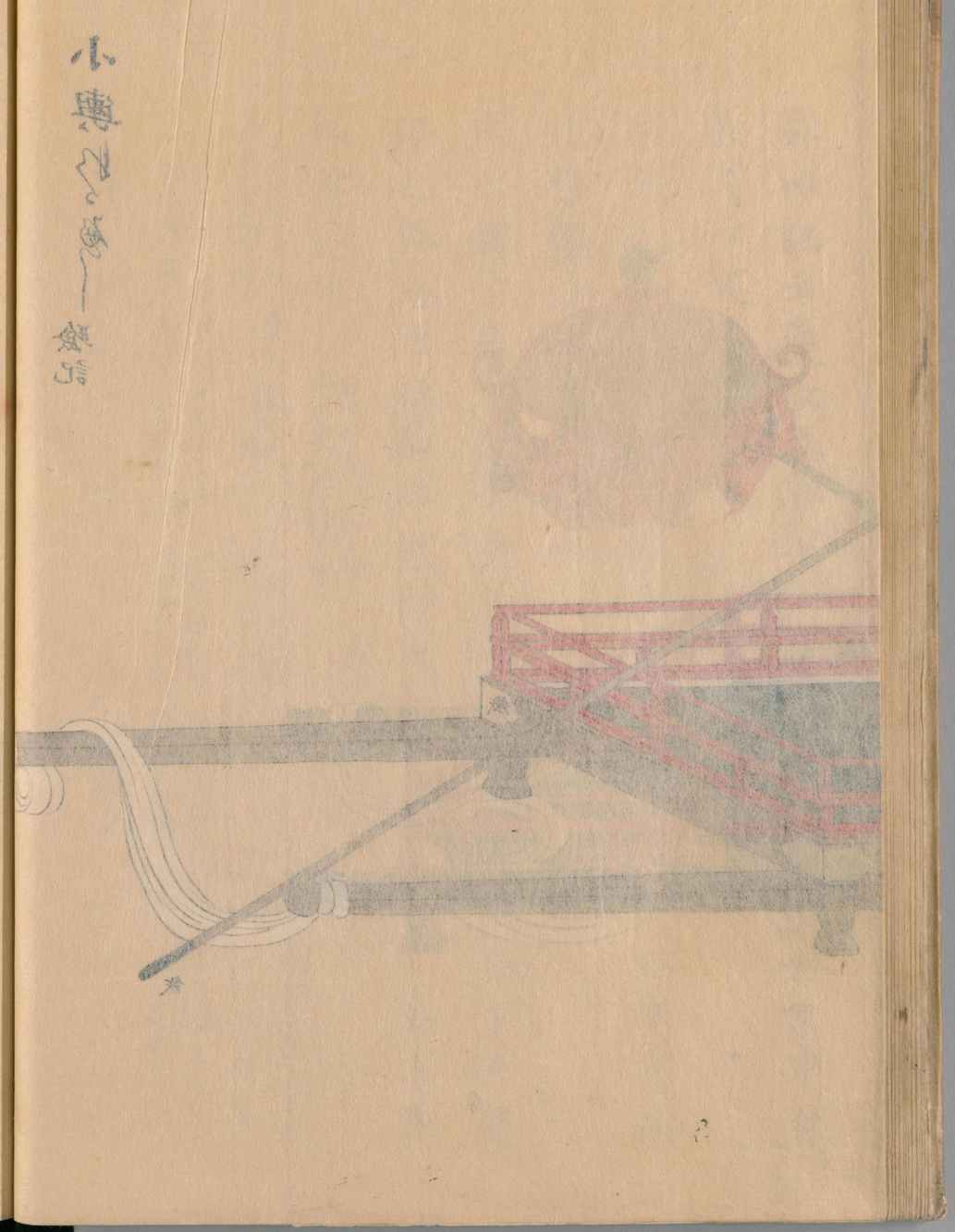
舜旧記云慶長五年十二月十四日擔輿於京申付
来代六文目也
同云元和四年五月十三日荷輿筵包大工申付為
作料銀子三文目遣也
同云同十年九月十六日上醍醐路ヨリ予食過令下山羅
歸也於路次神輿卑置御坐也予荷輿ヨリ令下輿
拜罷通也 お後かるく荷ふ乃ことゆへ下者也




小輿好事一驗記

拜罷通也 お後ひきく箱ま
しるせる者を

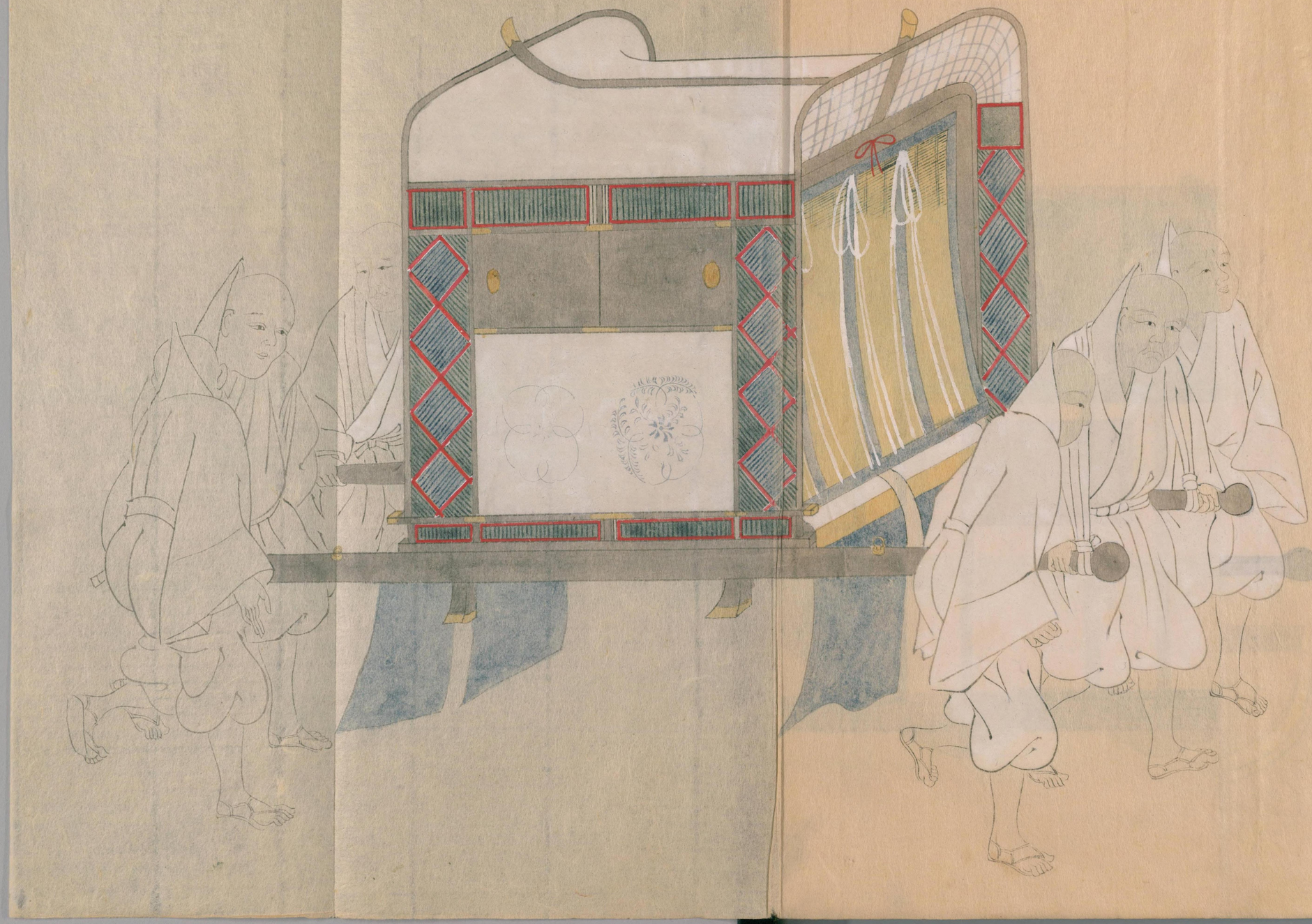
# 車輿驗記



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

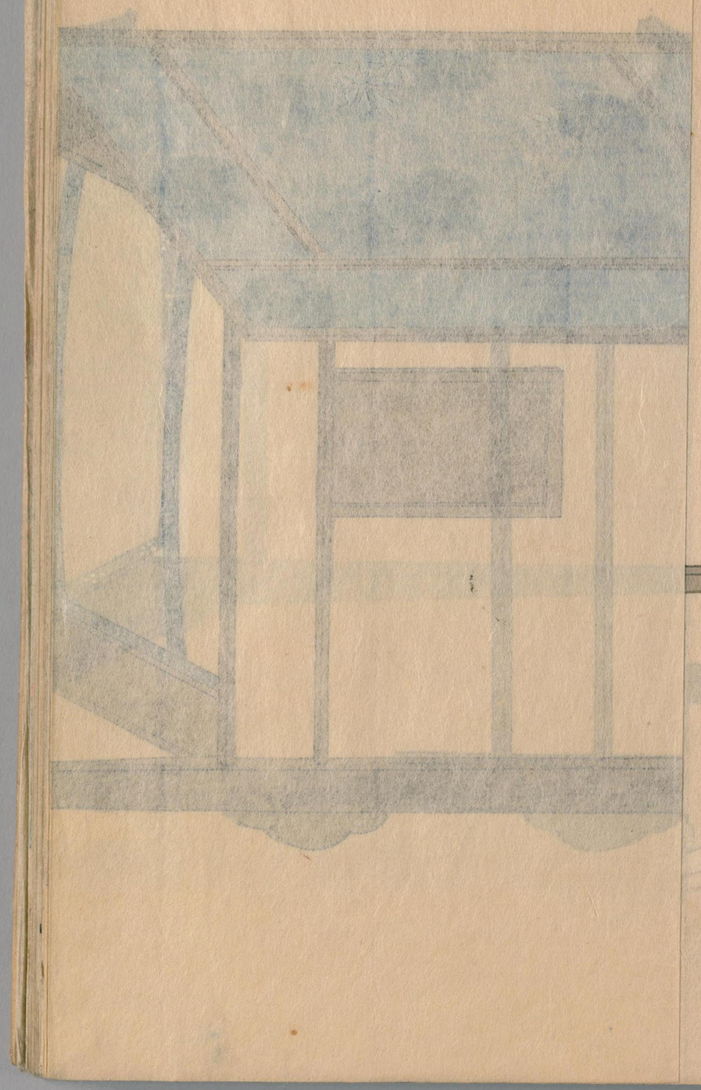
ガラス使用

車輿驗記



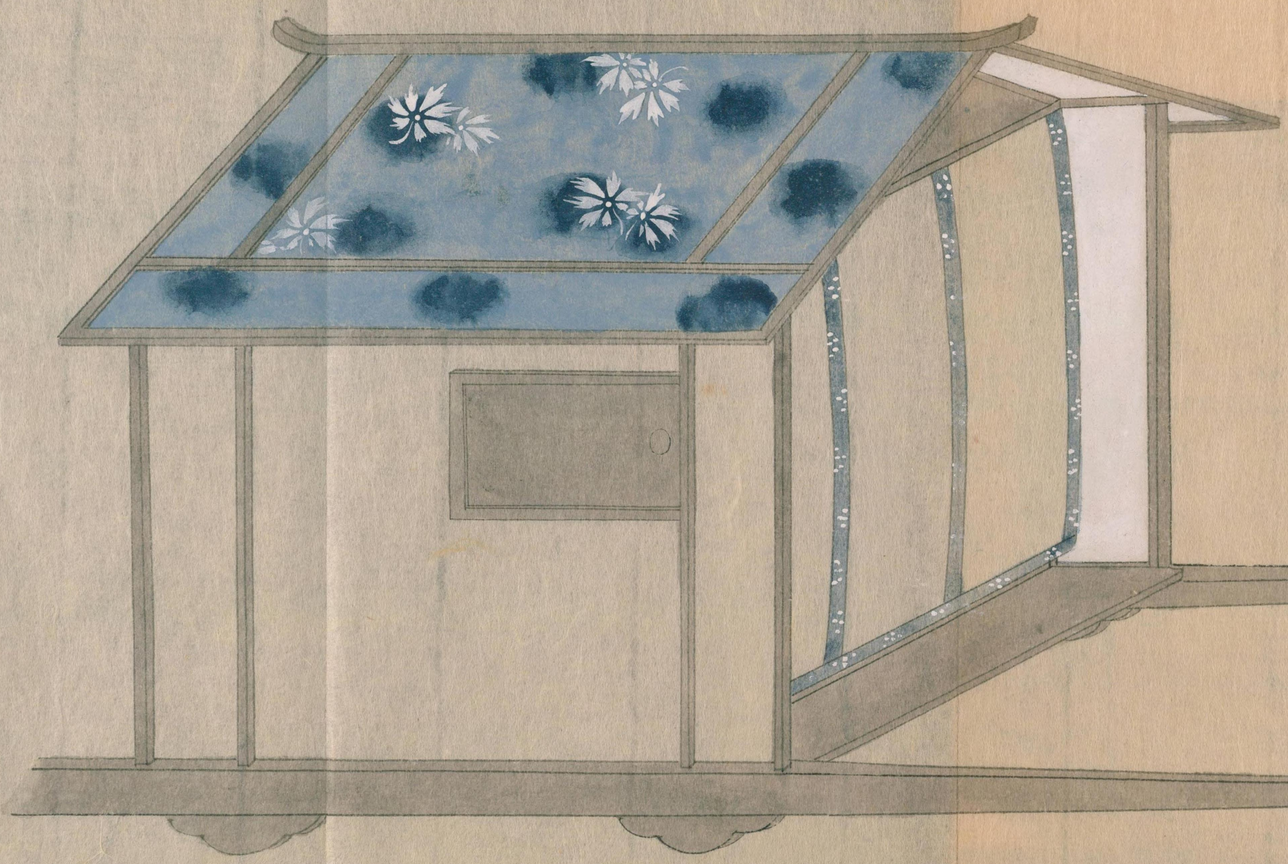
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

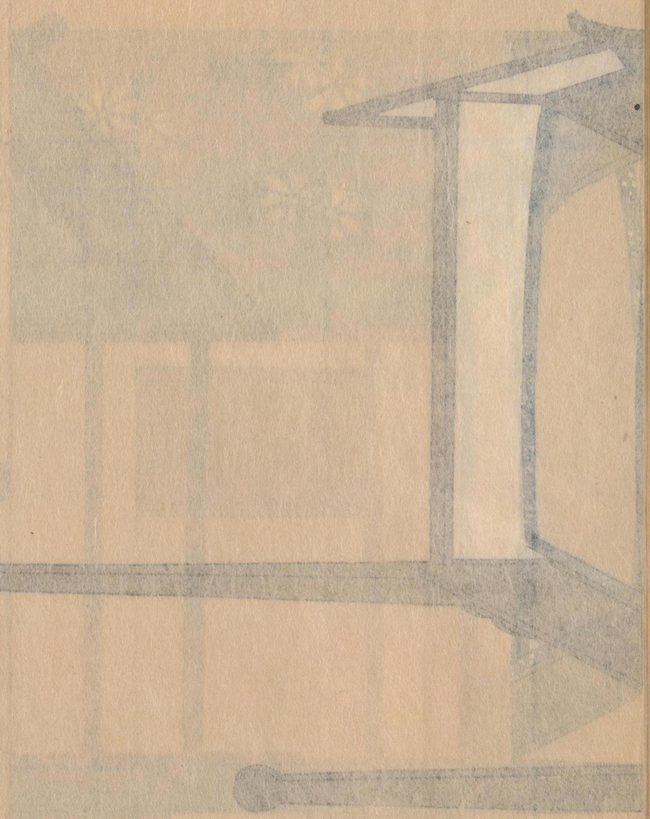
ガラス使用



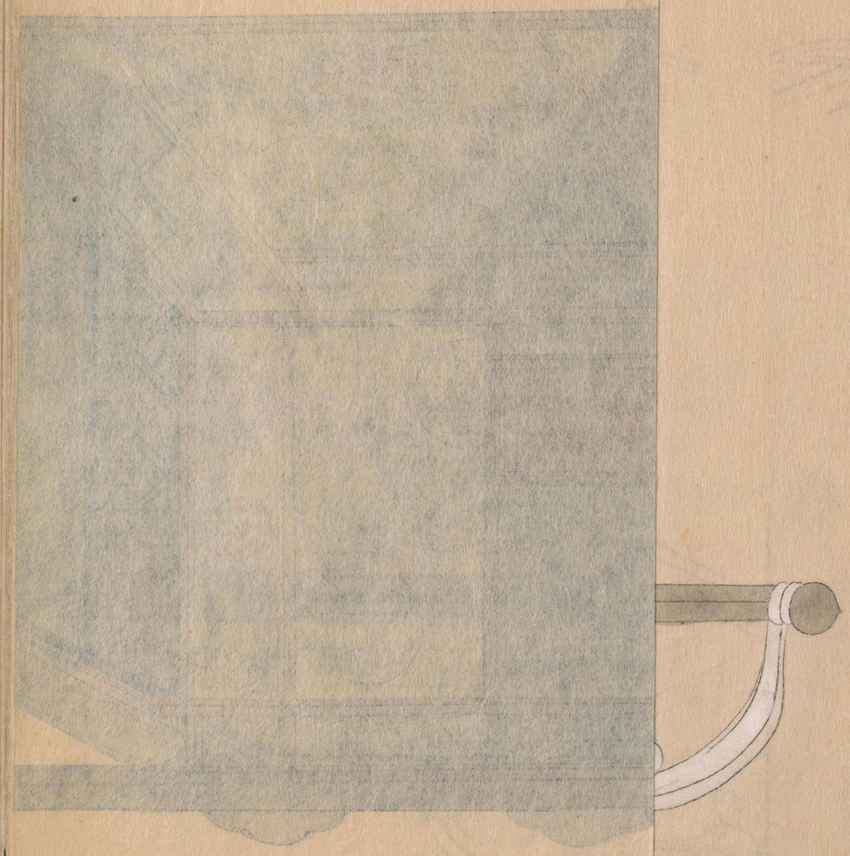
張輿形之制 全上

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

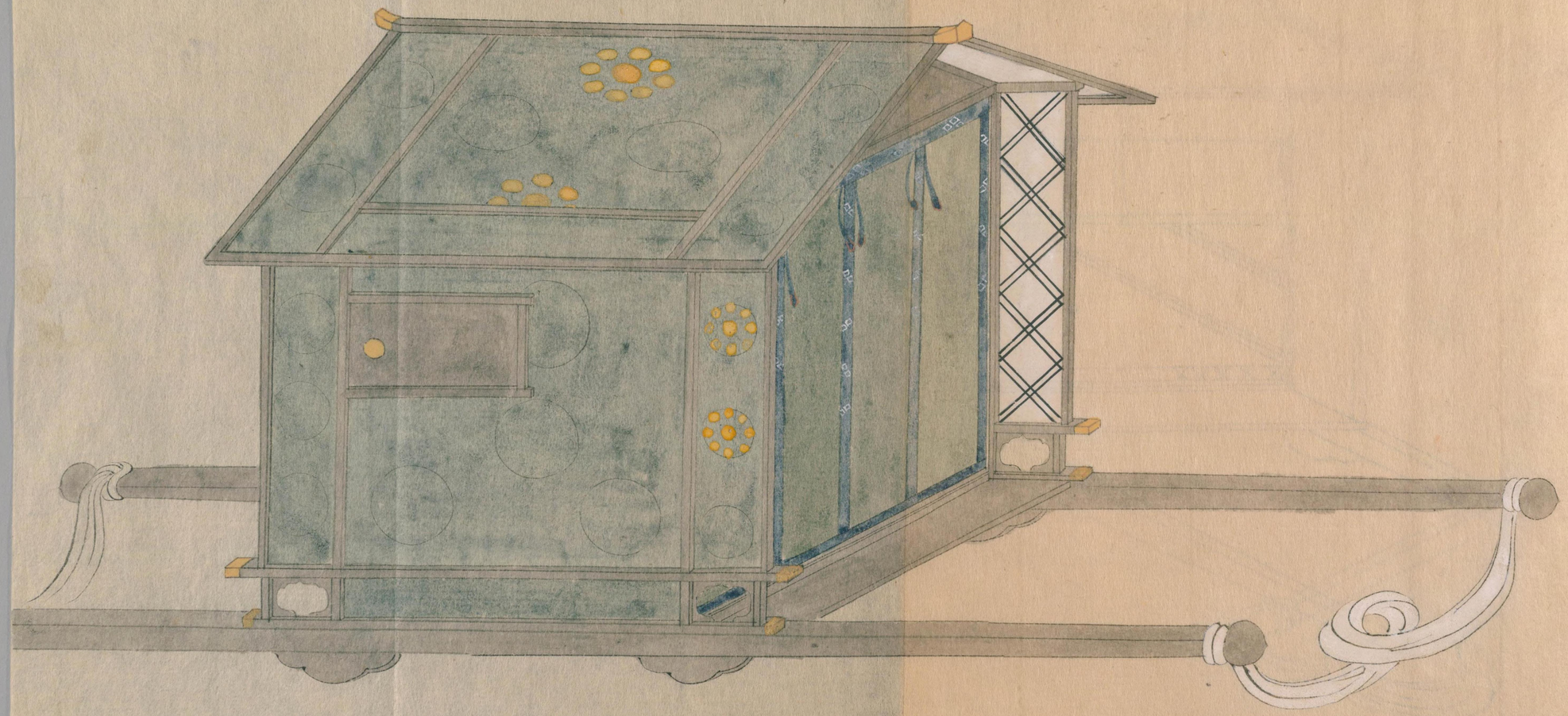






国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

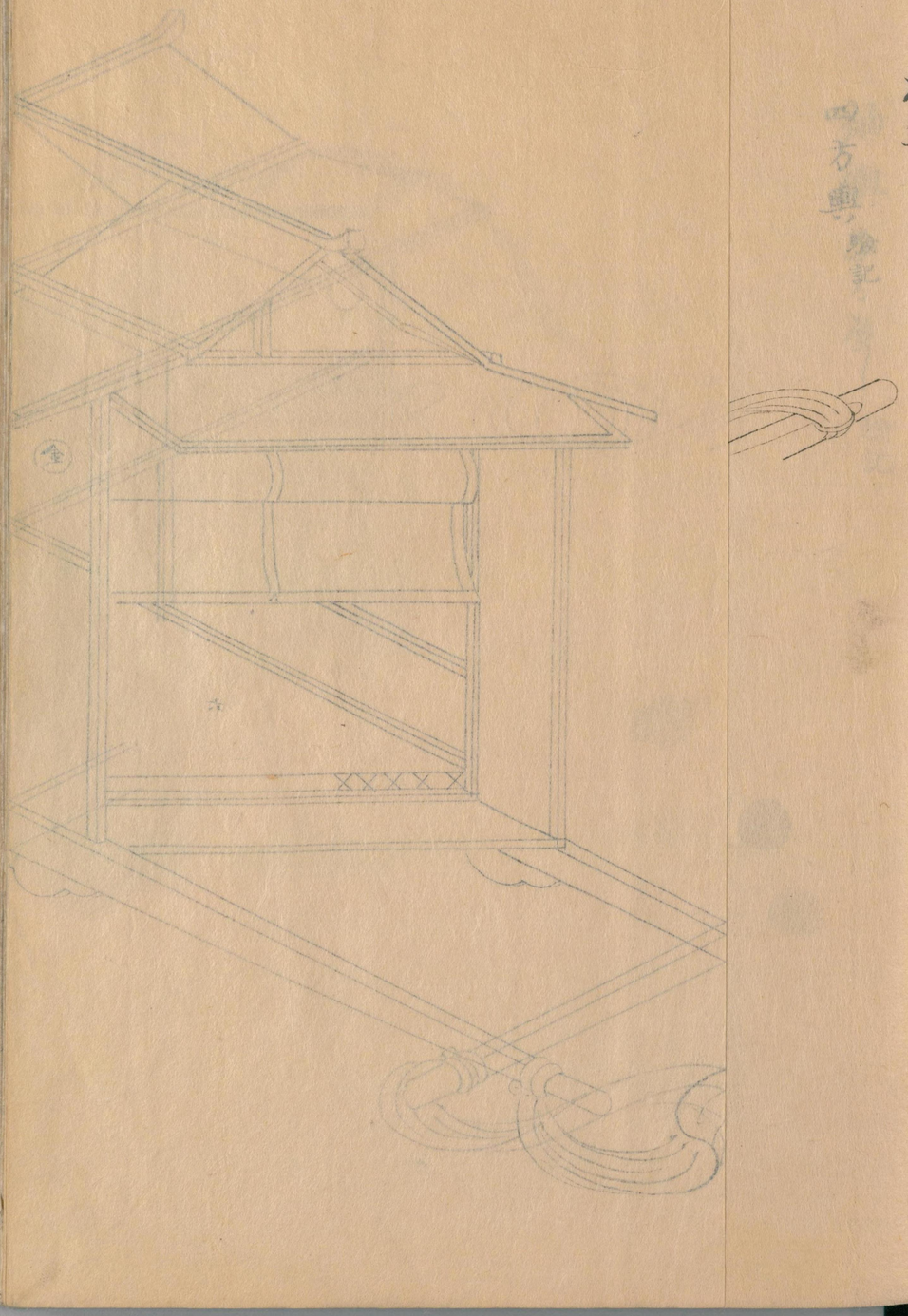


網代輿ある図

法然画傳

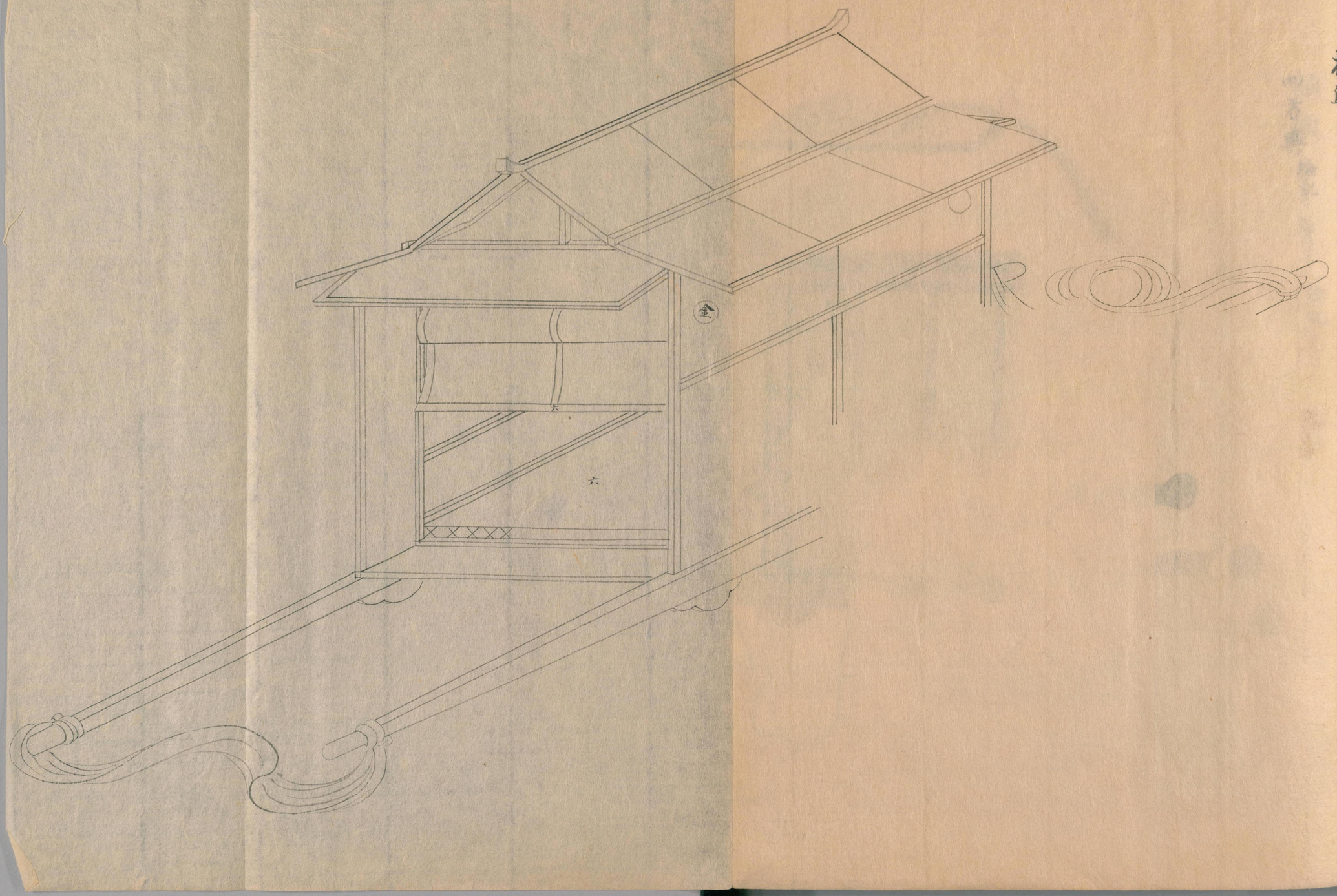
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

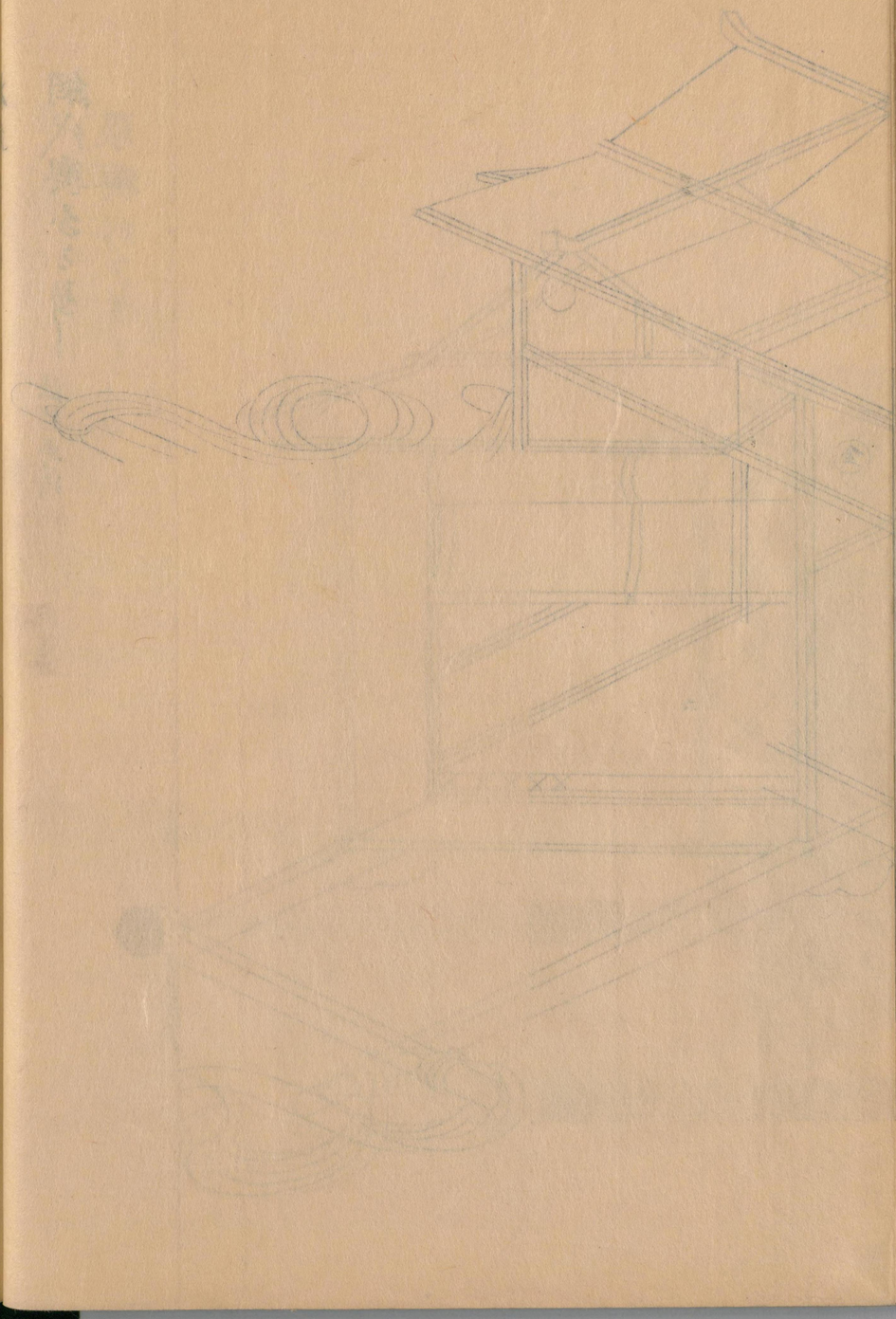
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

四方輿驗記



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

四方輿驗記

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

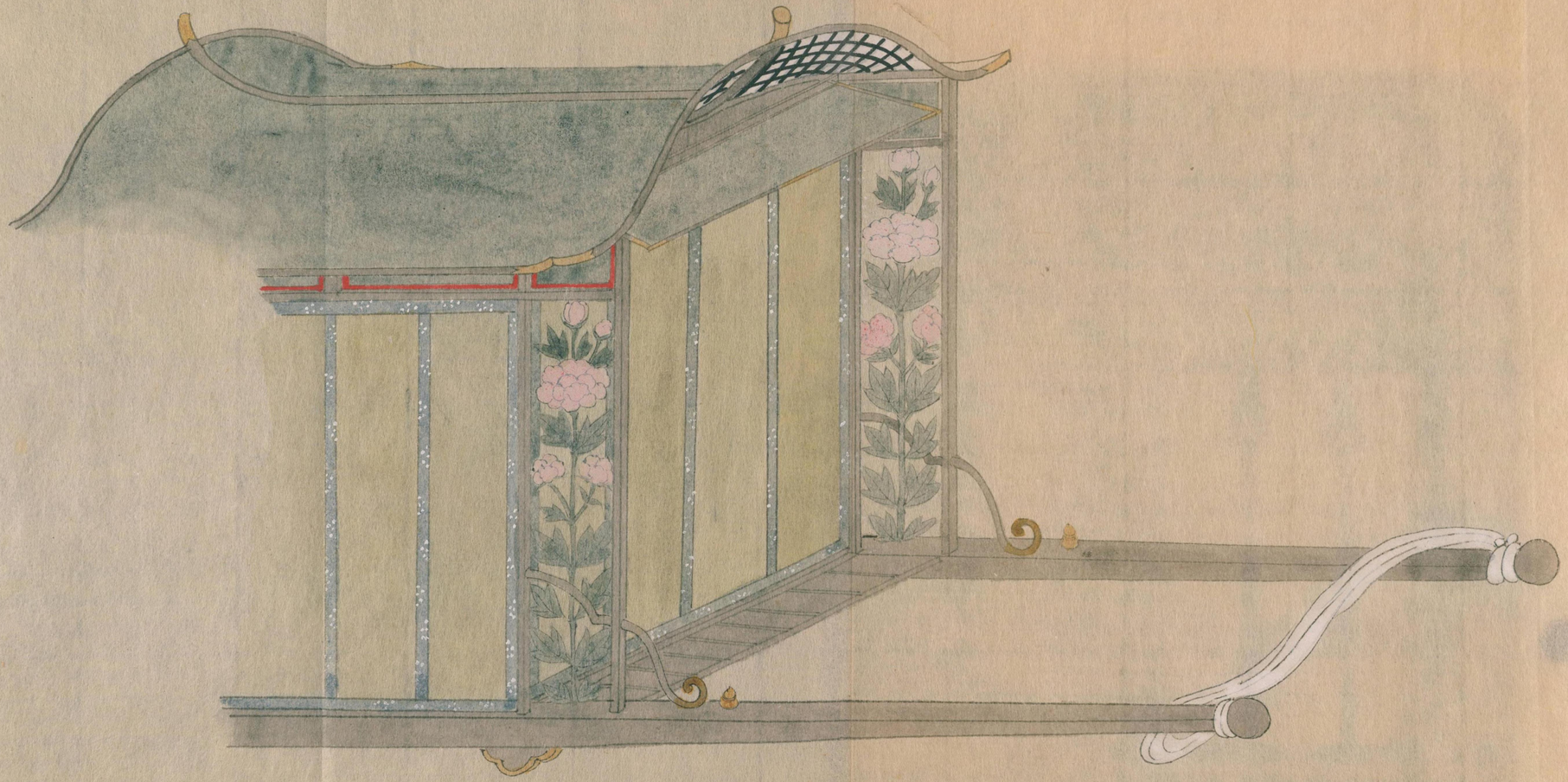
ガラス使用

袖輿ふろ

驗記

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

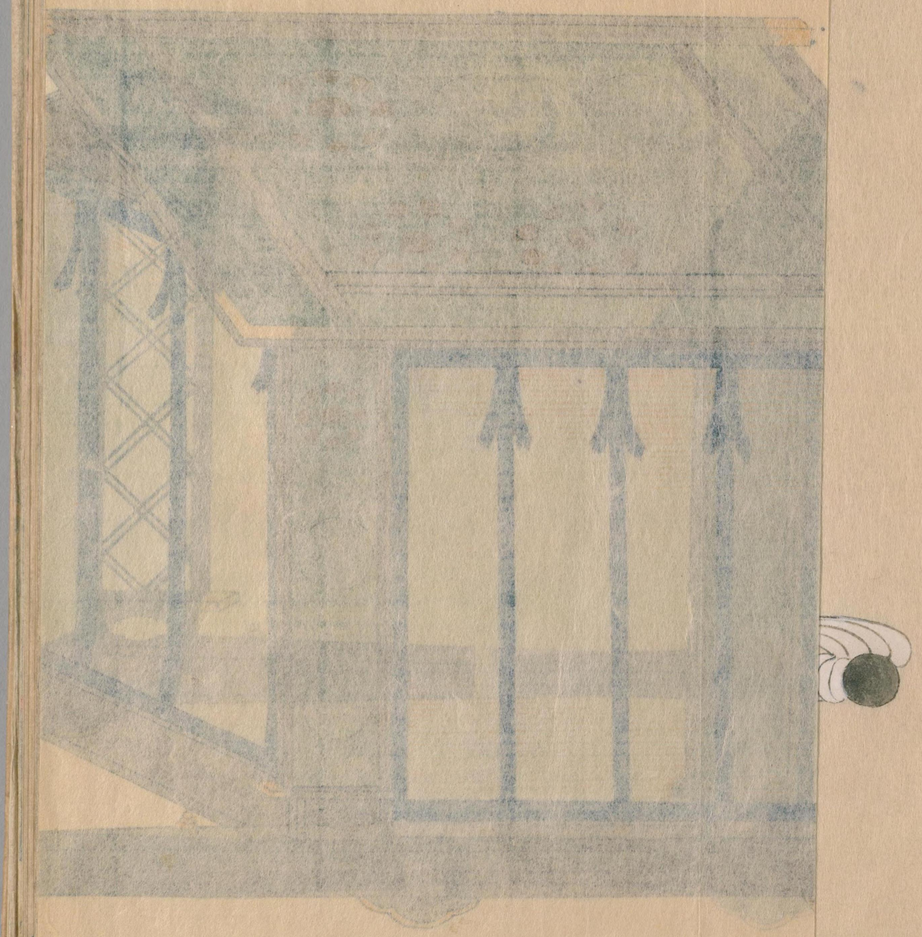


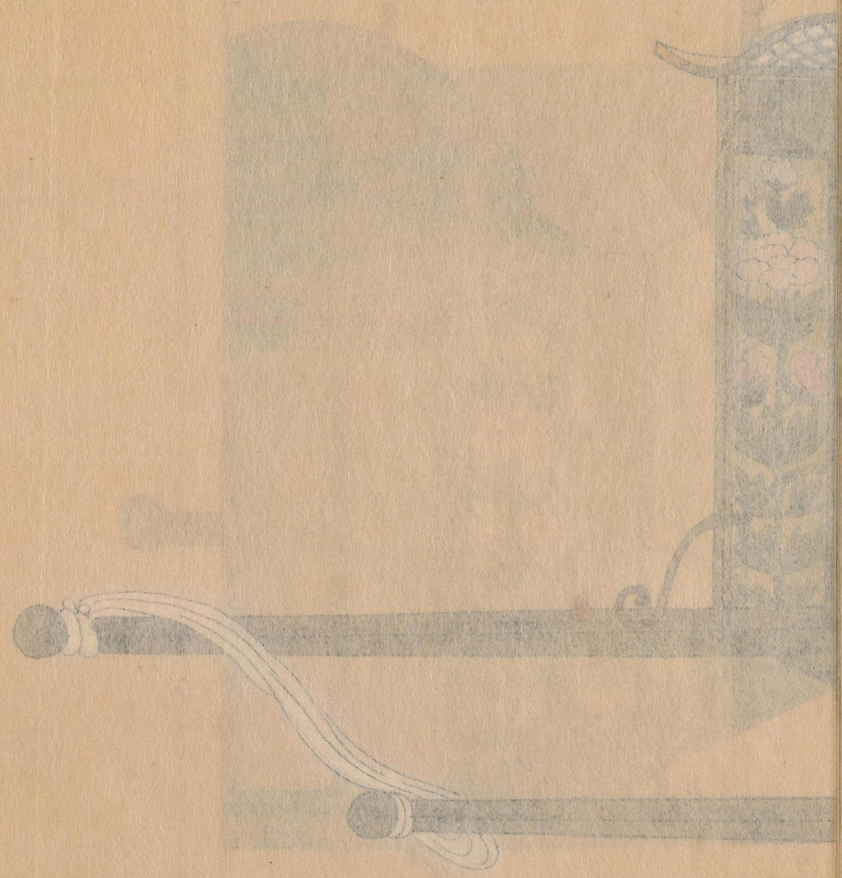
袖輿ふろ　驗記

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

同上

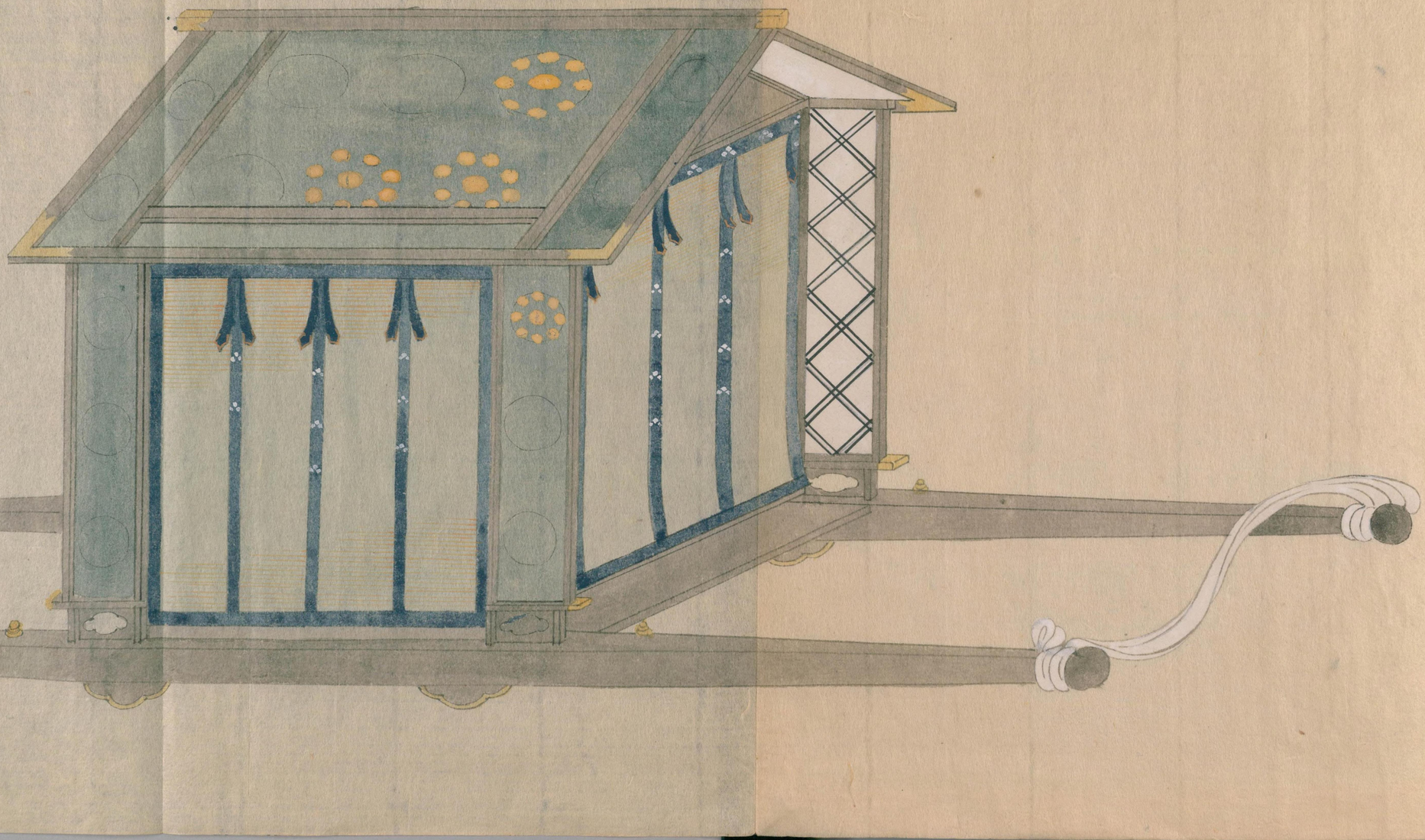




国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

は
22

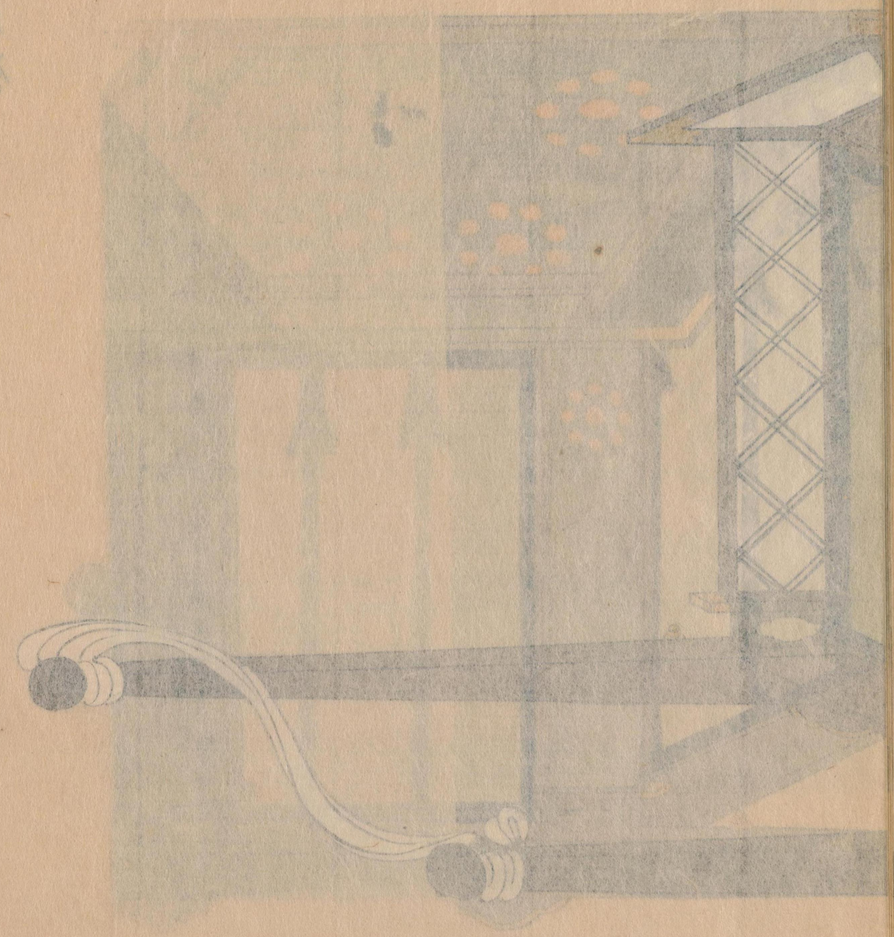


同上

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

は
12
22



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

# 輿車圖考

四

東京圖書館
和書門
政書類
一〇函
五架
九八號
一二冊

は
12
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

唐車 唐庇の車
ふるまひ

東京圖書館藏

舫抄云唐車太上天皇摂政關白無上之人乘之
八十嶋典侍 保元二十廿六
十嶋典侍 侍子紀伊局
勅使唐車 殿下賜之
大嘗會御禊 永治元十御禊乘唐車供奉若宮御
行始 天治二八廿五若宮渡御二条殿御車等遠
江守宗憲朝臣調獻唐御車以青色糸付房簾等皆
青色也
九條家車注文云唐御車音通定
上葺 檳榔 廂并腰総 檳榔 立板外綠色 同内 押綾畫唐画緑

巨萬津曽能乃斯傳

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22　　ガラス使用

錦袖外絑色物見落入外御簾散
内押綾繪緣錦
落入とは物見の板の下へ打
懸金あり落入にあらぬにや
簾芝の葉なり
御簾編糸紫七緒緣錦如
擐榔御簾裏糸紫
七絃といふ簾の色のもあるといふ事未詳
打ものの数なり擐榔御簾といふ蘇芳にて
染るなり
小簾四枚 藾芳 編糸同 綾同 四緒緣錦 長各二尺
金物外金物開戸 下張白色 帋 散簀
皆黄金物 御座京廷緣縷細
裏皆緒

上廂結絹 とも もろのお
またいろ次
御下簾 藾芳 浮線綾以色々糸縫唐草小鳥
筒貫素 尻金物下簾 通用之 藾芳
筒貫といふ帳なきにもあるべきものなるべし
如此なるまた角形木形
軟 總或無之 絹白妙常或打文
唐綾在綱志郭
うち交といふ山梔記遺縄擔句ノ打文有職抄唐綾
棟ともあり下濃又ハ白ふ
しる形へし一啄木組
御南皮 張廷如常
張廷といむしろをもて
陳ぬる形へし風簟の

そう莚くゝり各すべ車乃い詳記をまをそこ
るゆゑあるといかそうをいふもあゝし廣橋家へこひした
彼そうをあるも詳ならず

蛙扨云唐庇車号唐車也太上天皇乗御之一負御車
此也車女院乗用有例摂関臣晴日又乗用之所謂關
諸并大嘗會御禊行幸日用之白春日
是非私車申請上皇所乗用也
かゝむり私家にをいて被損ぬれば中古より牝の
御車と中出ゝる用ひ来ぬおまてゝ

大臣等不乗用之若准后乗用有例歟可尋之桃華
藥葉云唐庇晴時召之上葺擽柳毛簾簀縁芳編糸紫七緒縁錦裏紫綾小簾

簀芳浮線綾以色糸縫唐花唐鳥筒貫有
木入金物成普通簀芳下簾被用之小四枚字歟連
有繝或繝打文唐綾在繝著
無之志部或白如常

其餘ハ九條家記註文ふれるごさゆゑに省く

晴時上葺并廂總件總或用
紫未濃等用白糸其上打金物
九文袖以金銅透之立板外打金物付風流居玉

こゝ文九条家車註文乃異なにもあり

有職扨云唐車太上天皇皇后宮東宮等用ヒラル
又摂政關白乗用ス古ハ太上天皇摂政羅白ノ外
他人乗用ナキカ元永二年二月廿二日中宮御方
違ノ行啓ニ糸毛車イマタ出来ス唐車ヲ用ラル

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号　は-22
ガラス使用

ヘキ哉ノ由御問ノ時中御門右大臣申テ曰唐車
ハ院并ニ執柄用ラル、所也后宮ニヲヒテハ終
ニ例ヲミストゝミ右府ノ日記ニ見ヘタリ天治
二年八月廿五日或記曰若宮二條殿ニ渡御車等
遠江守宗章朝臣調獻ス唐ノ御車青色ノ糸ヲ以
テ總ヲ付ル簾以下皆青色ナリトゝミ
上皇棄御　大治五年十二月廿六日此夕院三条
西ノ御所修理ノ後初テ渡御唐車二乘御建久九
年二月四日上皇八幡ノ御幸ニ唐車ニ乘御負和
四年十二月十七日上幸御幸始唐花ノ車ニ乘御
女院付后宮東宮嘉禎三年四月十七日宣陽門院
入内唐車ヲ用ヒラル兼元二年七月廿七日中宮
行啓若宮同車唐車ヲ用ラル康和五年八月廿七
日立太子ノ日今宮唐車ヲ用ラル
摂翠　天永二年十月十九日知足院ノ摂政加茂
詣ニ唐車ノ用ユ久安六年正月四日天皇元服法
性寺摂政加冠トシテ參内唐車ニ乘ル兼安二年
七月廿一日月輪殿下ノ記ニ云今日松殿摂政ノ
若公女院ニ參ル唐車ニ乘ル治兼三年二月五日
松殿ノ關白北政所參内唐車ヲ用ルユ永享四年

七月廿五日後福照院摂政任大臣ノ節會ノ日唐
花ノ車ヲ用ユ
將軍家明徳三年八月廿八日相國寺供養ニ廊苑院
准后時前左大臣准后ニテ唐花ノ車ニ乘用セラ
ル應永二年正月七日同將軍太政大臣ノ拜賀ノ
時唐車ヲ用ラル牛車ノ宣旨ヲ蒙テ今日始テ牛
車ニ駕
中右記云康和五年八月廿七日參院御所高松依立
大子事可還御賀陽院仍有御出院御車寄北對東
面院殿上人前駈了次今宮御車唐車御車副寄東
人布衣

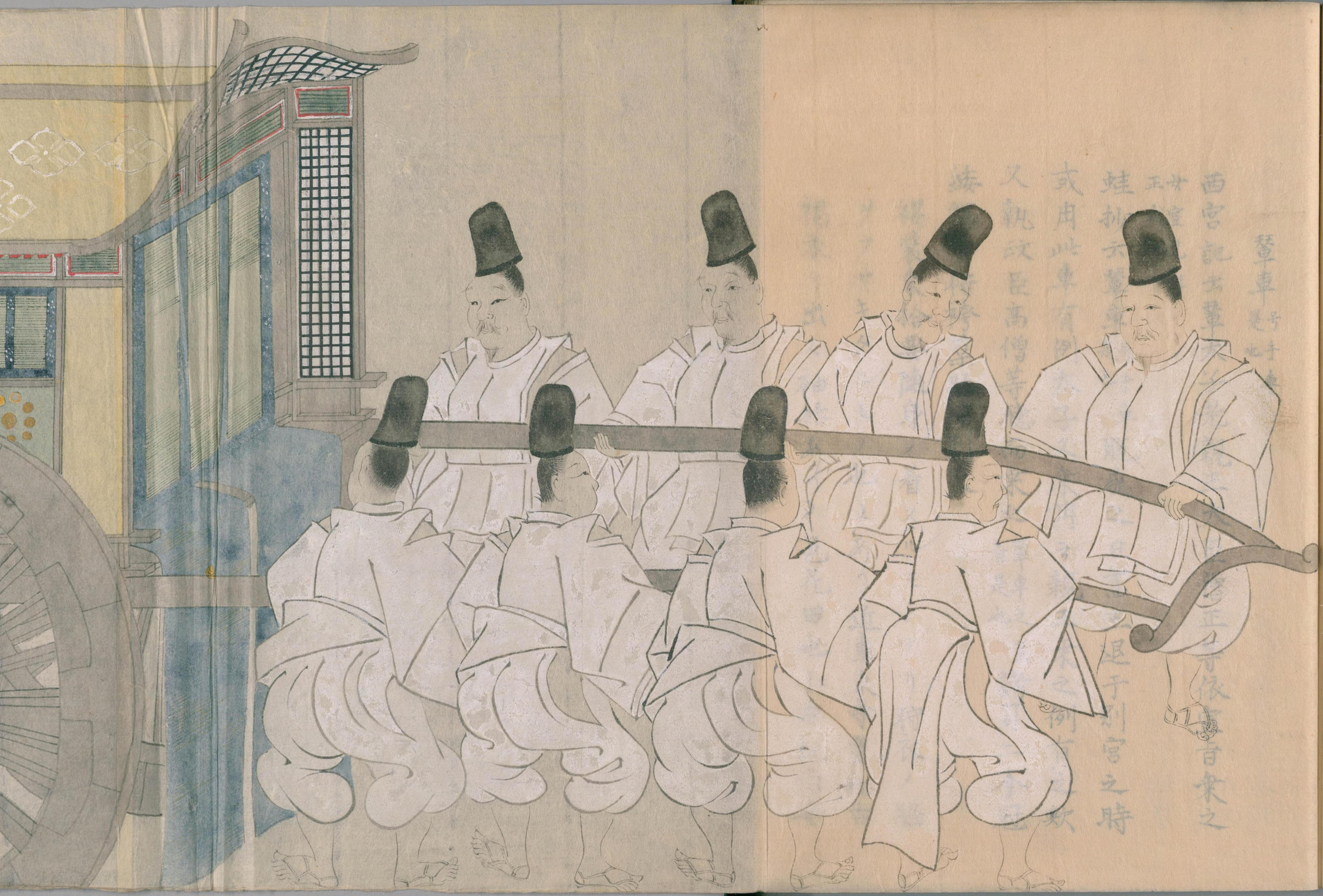
對西面
同云元永二年三月廿二日參院召御前被仰云中
當時后宮行啓之時用唐車哉殊不見也但此皇后
故京極之上万死一生云時以院唐車俄有行啓也
此外殊不尋得也如何予申云於唐車者院并勅柄
人所被用也時、皇后行啓之時用乘輿并糸毛車
車也於唐車者殊不見候仍不被甘心候之由奏了
同云元永三年三月廿一日今夕中宮從院正親町
御所可渡御三条烏丸亭也中
褐冠時皇后行啓多被用輿糸毛車
也而今度被申唐車如何

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

台記云久安四年十月二日贈法皇
依非執柄一門用院唐御車不乗輦車皇太后強後
彼吉例請院御車不乗輦車皇太后強後彼吉例槻
記云仁平二年三月十一日今夜幸白殿始令渡九
条殿給行儀唐車北政所同車人車記云仁安元年
十月十日有立太子事太上天皇葇二皇子憲仁中
未刻先御幸中宮次儲皇御車葇唐車也四面無白
同糸 糸綱左右横縁上菅
園太暦云観應三年七月廿六日践祚日渡御御車
車網代在今度依無用意被用唐庇之条且為立坊
遷御之時度々例因准不可有巨難歟但践祚日遷
御車久壽壽永兼久仁治徳治元弘建武此代々曽
不被用唐御車歟
おかく春日権現験記の画にもさいうのさ
しの御車乃ふくれとかふくらかとあり
ハ

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

輦車 号手車是也

女官見障正式也

西宮記云輦太子光親王大臣僧正等依宣旨乘之

蛙抄云輦車号手車是也脱屣之日奮主退于別宮之時或用此車有例太子又乘用ヲ親王乘之例有之歟

又執政臣高僧等聽而乘之輦車之旨是也宣諸司二令冠綾袴白狩袴菜脛巾引之

褐裝束拾要随身ノ着スルモノナリ狩衣ノ脇ヲフサキタルモノ也トあり近事東寺寶物古褐衣シ出ス袖結あり色花田也小右記治安

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

四年紫褐衣伊知比胫巾布帯
褐ハ花田ヲ女ノ後ニ結ん風流ありたさ
ゆゑ歟ヲもつて歟ヲ

同云三中抄ニ於待賢門移乗輦車於春花門前下車
以上俗儀也僧綱者徒翔平門也自待賢門乗移輦車也号雨眉車諸司ニ多著
東帯引至春花門或抄云乍賀入上東門至翔平門之也
于引ニテ至立輝門之前下車云
里内者於陣外祝所乗車引之牛車輦車ノ人ハ於二条西洞院辻下共
以五十未満人於門外不下云ニ又云牛車入従上東門至于式曹
司坤角下車即立車於此所又或抄云乍駕入上東門ニ町西行止御門王
生之角ニテ下車又云参内之時牛車宣旨以前引入車於
陣口車甚不當也或抄云不蒙ニ筒之宣旨人ハ於
宮城門下車今案宮城門トハ云ルトニ東上門事也高談云讃岐
院御伝ヲ避テ令出内裏給ニ御于車寄例車様寄
タリケレハセハクテ無可乗用之様ナケレハ令
犢豫給ケル程法性寺殿令参給于車ハソハヲコ
ソヨスレト被申タリケル時フハヲ寄タリケレ
ハ廣クテ令乗給テケリ下畧
テソハノ廣テ前ハセハキ物也于車ハ輪ノ干并サク
花鳥餘情云輦車ハ男女共ニカキラス僧中ニモ
アリ輦車ハ石橋ノ高キ門ヲリノホル中重ヲ出

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

入ノ為ナリ中重ノ輦トモ云牛車ハ牛ノヨル所ヘテ乗ナリ牛車ヲ聴テ上東門ヨリ出入スルナリ

左衛陣ヨリ入ル中重ノ門乃外ノ門ヲ閘門ト云

右中 本ノ門乃事ナリ又云車輪ヲ或ハ重月鈔ニテ云ヘリ

ウケヽナヽ元ノ無ノ板ニミヽカヽレタルヲ附輦ト云ナリ

為ニ云ノヽニユヽシキ事ヲ被ヽ行ヽ園融院乃毋后ノ御ノヽ式部ヲヽヽ近キ例ヲモ

ニヽ為ヽヽヽ

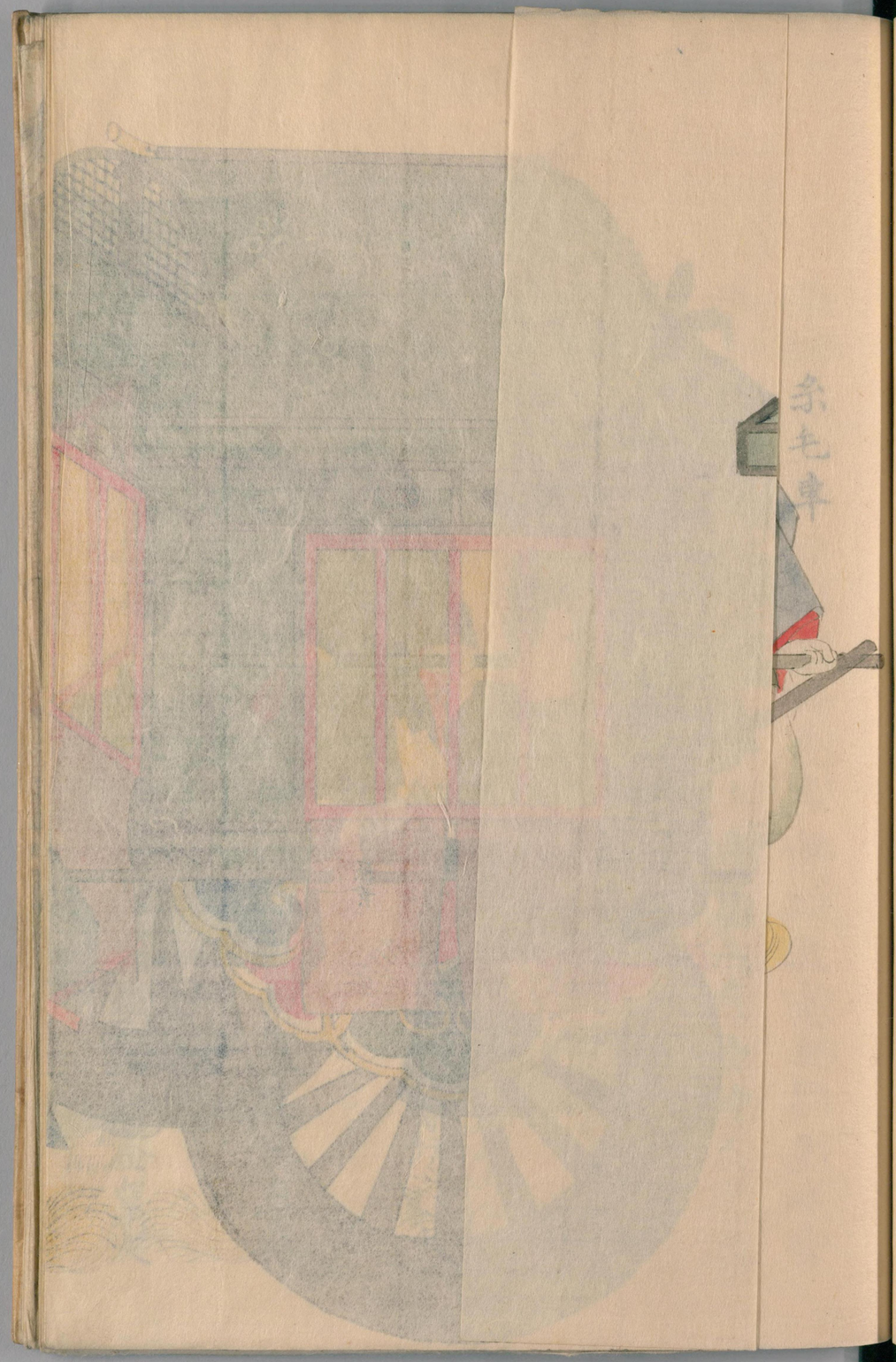
何輦但所在鴨院倉町之輦車軟件輦法成寺入道
相国輦ニ傳在宇治殿欤即借件輦豫加修理所用
也其形左右有廂前後無廂前後所為連子上青画
唐草圍文左右赤画同文赤色簾葽惟裏上白轅
鶏尾如尋大画ニかく事ニ候ニと
常車也

同二又安六年二月十六日今日卯時夢余従者與
卿従者不知誰御於法皇宮有所訟余憂之殊甚爰禅閤
乗透輦四面懸簾禅閤平且乗用輦也

玉海ニ文治六年正月十一日丙寅此日摂政太政大
臣長女従三位任子従三位有入内事卯刻到朔平門外先是糸毛
車舁放牛立榻南面去朔平門北砌一丈許當中央出車等列立中間次
藏人修理亮源忠国著青色出朔平門立壇下右外南面

仰于車其詞ニ従三位藤原朝臣任子參給于車令入之
次輦車ヲ引上壇上南北行立之差廻毛糸車以鶏毛方
為面輦輦車下糸毛ハ高ク輦車ハヒキ、也仍車副
并余大将随身等揚于輦車副等入之諸大夫等付前
後轅兼房良経等卿取几帳指掩之中間人三位及母儀
乗移了撤几帳立輦車後方始欲乗之時撤之也立
之時大将可立之也舁下之引太糸毛車以于車前方近南ニ
引向之諸大夫十二人付之前後轅各六人一方各三人也
引入門

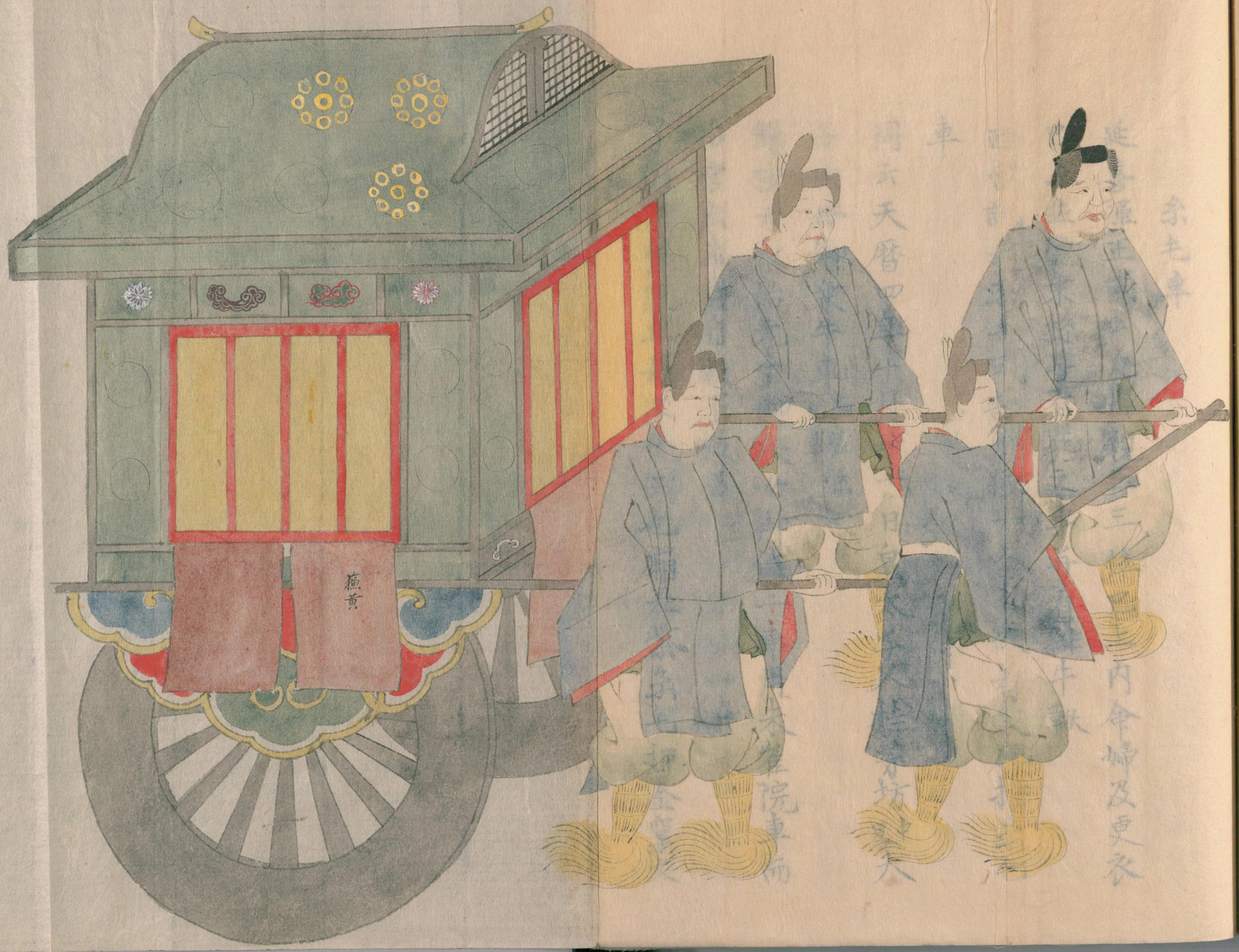
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用



まてさしくるしからさるにより

葉黄記云寛元四年正月九日今夜東宮行啓前右
府冷泉万中将自葦車移御唐車之時西大夫掩几帳
抑路次之間諸司二分一切不見御車副二人其外
召使等付轅為奇

さの図いと山縁記乃絵にもてあるの事




国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

糸毛車

延喜諢正式云凡内親王三位已上内命婦及更衣已上並聽乘絲菅有庇之車并着緋牛鞦西宮記云糸毛式部卿依一分召參着乘庇指糸毛車

同云天暦四年十月廿一日皇太子興母御乘牛車（廂差糸毛車）

餝抄云永治元十御禊女御代二車用朱雀院車而后宮出車料自殿下被召了仍冉齋院車是又先例也廂差紫糸毛押金窠文

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

紫糸巻簾有繍同色頸繩綱半疊東京錦茵赤草鞦
杏葉棟綾組総三車齋院車紫察大納言被獻寶本家御沙汰無庇紫糸毛
押金銀窠文相交自餘同二車已上自一車至于二長
三金作車不出袖
尤九御禊女御代御車青色糸毛廂指二車有廂自此車以
下皆紫糸四車無庇
久壽元十四戌秘記曰東宮自鳥羽南殿行啓同田
中殿先例召左禪閤之負信公青糸毛今度被用在
院之青糸毛云〻件車故待賢門院為中宮常出入
之時白川院被造云〻通方案負信公青糸毛執柄
家秘藏之間白川院如令造給歟且藻壁門院入宮
之時青糸毛新車又出来入道相国造之云〻件車
在近衛之流故也
仁安三十廿一御禊女御代車負信公青糸毛
前摂政被調獻之簾青色糸有繍卷有繍下簾青色有繍浮線綾頸総青色組総村濃鞦赤韋朱漆付杏葉
畳繧繝端錦茵雲珠寛加以後居之
特衣退紅襖衣白襖袴布下袴
永治元十御禊 御車負信公御車功国加修理菅青糸押金窠
文青簾有繍伏組綾浮線綾青下簾有繍繧繝半帖唐錦縁茵
赤鞦付杏葉棟綾組綱雲珠寛加以後不居之今度可居之由有仰不知其旨之
仍依御牛震頸総同以下可付也而御牛出自院被獻
令取之也 牛被引地又令取之

也

蛙抄云糸毛車（糸毛庇青糸毛紫糸毛）

青糸毛（前後有庇）更衣典侍尚侍乗紫毛車

桃花藥葉云負信公絲毛元永二年三月七日中宮御料自院借之称破損之由不被獻之爰上皇仰云借請之条不落居也累代無止事一家皇后乗來車也而左他家料不覚皇居其料借請誠可惜也云々

（師時記）

有職抄云糸毛此車ニハ院后宮東宮内親王女御代摂政關白是ヲ用ユ又式部卿一分召ニヨリテ省ニ向フ時庇差ノ糸毛ノ車ニ乗ルトゝ、久壽元年十月四日東宮鳥羽ノ南殿ヨリ同ク田中殿ニ行啓先例禪閤ニアル負信公ノ青糸毛ヲ召ス今度院ニアル青糸毛ヲ用ヒラルトゝ件ノ車故待賢門院中宮トシテ常ニ出入ノ時白川院ウツシ造ラル、由台記ニミヘタリ土御門大納言曰負信公ノ青糸毛靭柄家ノ秘藏ノ間白河院造給フカトゝ

負信公ノ青糸毛車　輿寸法如例（前ニ以上全リ）槻輪（同前銅ノ金物ア）

前後庇（青キ絁アリ）上簀（青キ糸綱付絹糸毛ノ上ニ銅ノ窠文ヲ付ル其間ニ

唐草ノ文ヲ付ル　簾面青シ薄青ノ糸ヲ以テ作ニ巻テ是ヲ綸ハ練糸也孔雀ノ丸ノ文ヲ綉フ縁ハ薄青ノ和錦棟綾ノ平組堀物ノ金物アリ裏青平絹金物アリ或記ニハ萌木打トシルセリ

こは必糸撚約革の綴ならんかさまでも簾の革画にすこやかく精をくわへ組堀物乃ちれを乃形とし図ころ

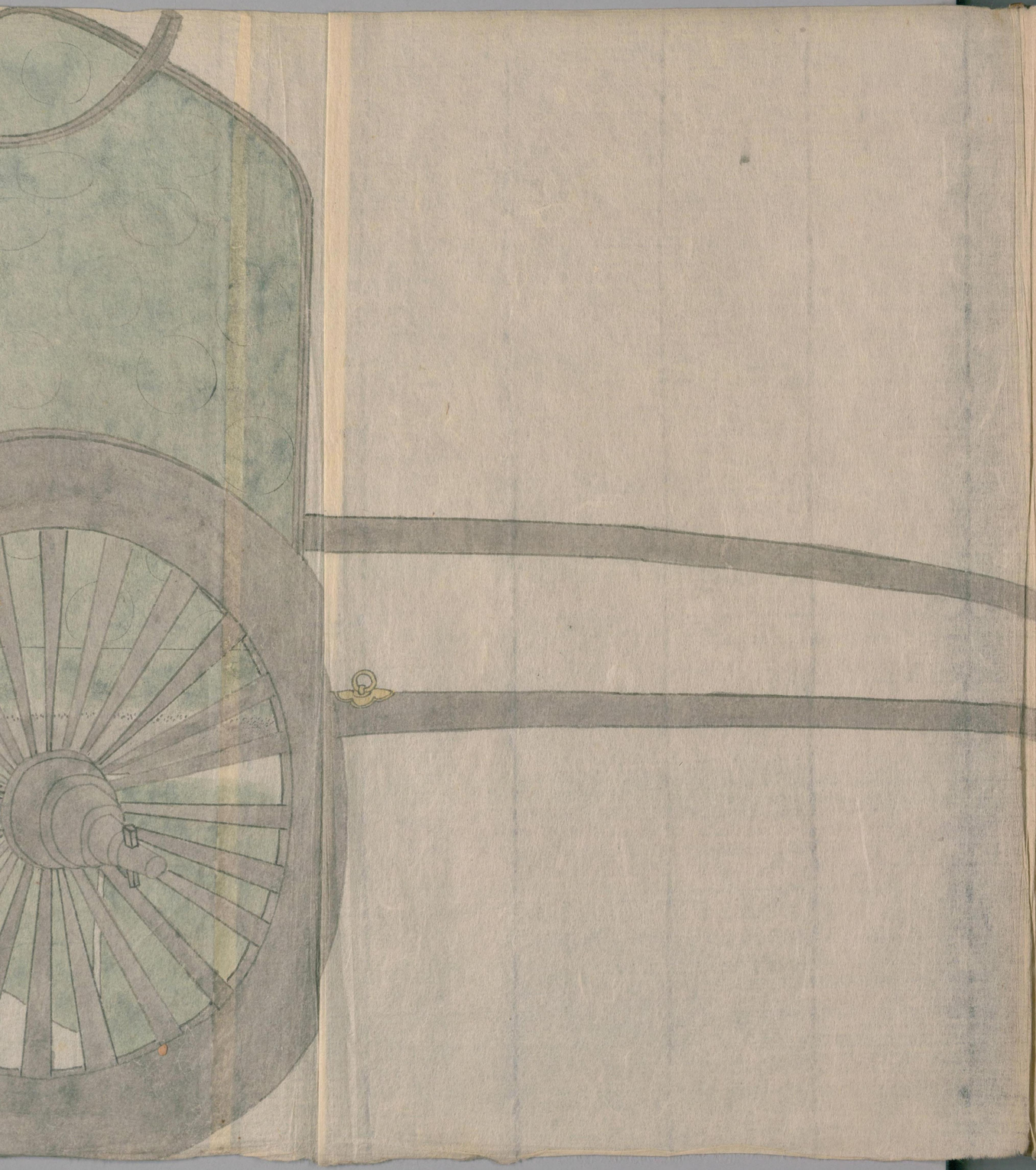
下簾　青又所ニ蝶アリ濃有文ノ沙綉アリ孔雀唐草ニ蝶アリ長サ七尺二寸五分畳縁綱庭引立遂ヒシ茵東京錦遣縄唐綾棟綾丸緒総長一丈五尺鞦平皮是ヲ帖ム其上朱ヌリ古葉十六枝蝶十八草崎六胸掛同前吾葉五枝面懸同前杏葉五草崎六楯鶺迄金物総角組四ノ角ニ是ヲ掛ル有面青地錦縁四方ニ伏組アリ康和五年八月廿七日東宮立太子之後初テ行啓ニ具信公ノ青糸毛ノ車ヲ用ヒラルル知足院ノ關白時ニ左太臣ニテ是ヲ進ストころ久安四年十一月二日台記ニ云具信公ノ車ヲ賜フ南庭ニヲイテ右太将ト共ニ是ヲ見ル今案ニ右ノ青毛糸車ノコトタルヘシ永治元年十月御禊代一ノ車負信公ノ車也二ノ車朱雀院ノ車ヲ用ユ然ニ后宮出車ノ料殿下ヨリ召サレ畢ヌ依テ齋院ノ車ヲ用ユ是又先例ナリ其様庇差紫糸毛押金窠文紫糸ノ巻簾綉アリ同色ノ頭総アリ纓

綢ノ半疊東京錦ノ菌赤草ノ鞦垂棟綏組総同年
三ノ車齋院ノ車按察ノ大納言獻之其様庇ナシ紫糸毛押金
銀窠文自餘二ノ車ニヲナシ長元九年御禊女御
代ノ車青ノ糸毛ノ庇差ノ車紫糸毛庇アリ四ノ
車紫糸毛庇ナシ長承三年四月九日后宮立后ノ
後初テ院御所ニ入御金作ノ絲毛車ヲ用ヒラル
治承三年六月十二日東宮行啓糸毛ヲ用ヒラル
淺浮抄ニヒロケイト毛同シ物ナリヒロウノ細
クワリタレハ糸ノヤウニ白クウツクシクミユ
ルナリ名物ノ青糸毛モコノワリメル細キヒロ
ウヲ青ノ蓋ニソメタルナリ
お乃伝いうくかも

小右記云長和二年九月廿七日今日典待衆檳榔
毛車依無絲毛車葉黄記云寛元五年三月十一日
修理物畢車三両金作糸毛銀作
糸毛金作糸毛
大府記云寛治六年三月四日院并中宮渡御鳥羽
中宮令駕糸毛車給貟信公御車自殿被獻之所司
二分十人副軒侍四人束帯歩
行無糸毛金作騎馬女藏人諸衛供奉如例
長秋記云大治四年三月十九日齋院三年祭了入
給于野宮之御禊也中畧一車他院司不知名鞦肖皮

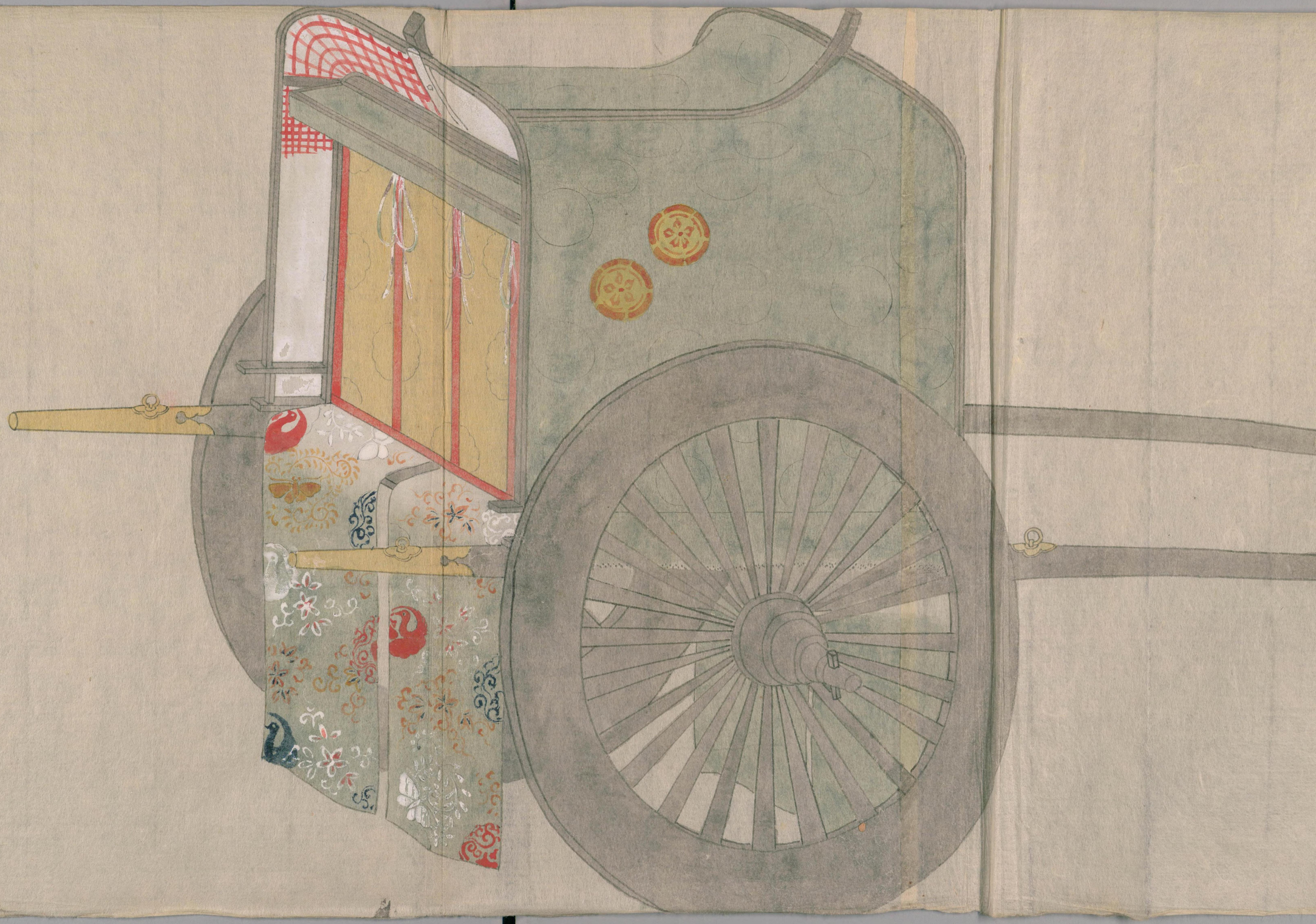
頭布云今朝行事上卿大納言宗忠卿称先例一車
料被申請摂政家歟摂政云糸毛車苧歟付杏葉所
用也而上卿有此命彼所見歟仍所送也者而今尚
用皮歟二三渡了

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

## 鴨毛車

江家次第春日祭使途中儀條云昔蕃客参入時重
明親王乗鴨毛車着黒貂裘八重見物此間蕃客競
作裘一領持来為重物見八重大歎云〻
かも毛の車古画に所見紅をまぶしめ

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

は
12
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

は
6
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用